

教育・研究業績書

講座名 小児科学		
＜教員の紹介＞		
教授 有阪 治	准教授 山内 秀雄	講師 西田 光宏
教授 杉田 憲一	准教授 吉原 重美	(学外派遣中)
准教授 加納 健一	講師 志村 直人	講師 新田 晃久
准教授 黒澤 秀光	講師 福島 啓太郎	
准教授 鈴木 宏	講師 大和田 葉子	
I 教育活動		
教育実践上の主な業績	年月	概要
① 教育内容・方法の工夫（授業評価を含む）		
1. 卒前教育 学生教育への取り組み	2004年5月～現在	<p>1) 講義への取り組み</p> <p>小児科学講座は、2006年に2講座が1講座に統合され、講義スタッフを無駄なく教育カリキュラムに配置できるようになった。その結果、BSL教育および臨床研修医教育に加えて、卒後教育にも好影響を与える結果となった。</p> <p>小児科学として2008年度は3学年に30回の講義を行い、6学年で成長・発達医学として12回の講義を行った。前者では基礎知識の習得に重点を置き、後者では基礎知識から最新の話題まで、幅広い教育を、さらに国家試験対策も心がけた。</p> <p>また、分野別講義（血液、循環器、呼吸・アレルギー、救急疾患）を他科との協力のもとに3～4学年、6学年に行った。さらに、6年生には放射線画像、症例演習などがあり、国家試験対策講義を行った。</p> <p>講義に臨むにあたっては、知識を教えることと同時に、講義者は医学生を通じて社会に貢献しているという自負を持つように心がけている。講義の技法としては、視聴覚教材を積極的に取り入れることにより、医学生の小児科学への興味を深め、小児科医になるモチベーションを高めるように工夫・努力している。</p> <p>2) BSL教育への取り組み</p> <p>小児科は平均7名の学部5年生がローテート</p>

		<p>(2週間)する。実習を通じて基本的知識を身につけること、さらに卒後研修に求められる技能とコミュニケーション能力を身につけることも目指している。その目的のために、学生には多くの患者を受け持たせ、臨床参加型の臨床実習を行っている。学生1名に指導医(小児科専門医資格を持つ)1名が、マンツーマン指導(1週間で指導医が交代)を行っている。毎朝8時30分からのカンファレンスでは、受け持ち患者の状態と問題点を簡潔に発表させ、診療に参加している意識を持たせている。週1回の教授回診前のカンファレンスでは、BSL学生は受け持ち患者の1～2名について診断や治療経過等を発表させ、質疑応答を経験させている。</p> <p>医師国家試験を意識した指導法として、前年度の国試に出題された疾患リストを事前に学生に渡し、実習中に経験できた疾患を自己チェックさせることにより、BSL実習が国試対策に直結していることを実感させている。また、分野別のクルズを5～6コマ行い、実習中では学べない国試に直結した必要なコアな知識を教えることにより、学生の医師国家試験への意識を刺激している。</p> <p>3) BSL教育の評価</p> <p>BSL実習の終了時には教授による口頭試問が実施され、学生の理解度と達成度を評価している(臨床実習の成果が不十分な場合には再実習となる)。この際、学生から小児科学教育全般に関する意見や要望を直に聞くようにし、学生教育に反映させている。</p> <p>4) BSL学生からの評価</p> <p>小児科独自のアンケート調査用紙を作成し、BSL項目別の指導内容と指導医への評価と、項目ごとの自由コメントを求めている。学生からの評価の低い指導医は、指導を行うが、改善がない場合には学生指導担当からはずしている。</p> <p>5) 国試合格に直結する教育効果の客観的評価</p> <p>T予備校による商業模試の結果に基づき、国試</p>
--	--	---

<p>2. 卒後教育 初期研修医教育</p>	<p>2004年5月～</p>	<p>合格に必要な小児科学の実力の評価を行っている。受験者数が最も多い4回目の模試における一般問題、臨床問題別の全国平均と本学学生の平均点を比較することにより、本学学生の実力を評価してきた。小児科学の苦手分野については、講義やBSL実習中のクルズスで補強している。</p> <p>6) 学生の海外研修</p> <p>2004年から3年間は杉田と山内が交代でドイツのミュンスター大学の海外研修(5年時2週間)に責任者として同行した。</p> <p>小児科には、2か月ごとに平均8名の初期研修医がローテートする。プライマリケアを中心とした総合診療能力を身につけることが目的であるが、研修医が経験したい疾患や分野の希望も可能な限り聞き、個別の研修コースを設定した。研修医指導者講習会を受講した指導医および上級医がマンツーマンで指導した。回診前カンファレンスおよび症例検討会では、発表の経験を積ませた。研修中に英語論文を読ませ、抄読会で発表させた。さらに発展的研修として、経験した症例を小児科学会栃木県地方会で発表できるように指導した(新制度発足以来、初期研修医による発表者は12名)。</p> <p>研修にあたっては、夜間当直明けの勤務は正午までとし、過剰労働により研修に支障をきたさないように留意した。</p> <p>厚労省医政局認定の研修医指導者講習会に教室員を参加させており、現在小児科講座内で10名以上が認定を受けている。</p> <p>2) 後期研修医(レジデント)教育</p> <p>日本小児科学会専門医試験に合格することが、後期研修医教育の大きな目標である。日本小児科学会が策定した小児科専門医到達目標をクリアできるように、病棟主任が受け持つ疾患を調整している。後期研修期間は個々の研修医の subspecialty を決める時期であるので、研修医の</p>
----------------------------	-----------------	---

大学院教育	2004年5月～現在	興味に応じて専門学会・講習会への参加を推進し、各専門分野の講師・準教授クラスが研修医の相談・指導にあっている。 有阪は内分泌関連、黒澤は血液関連、山内は神経関連の題目について研究指導し、それぞれの大学院生は新知見を得て、学位を授与された。
教室内全体教育	2004年5月～現在	抄読会、クリニカルカンファレンス、学会予演会は学生からスタッフ全員参加で行われている。
その他	2004年5月～現在	有阪は臨床研修委員会(2年間は委員長)、カリキュラム委員会、杉田は臨床実習(BSL)委員会委員会、臨床研修委員会、黒澤はオスキー担任、総合試験委員会、吉原はCBT委員会、オスキー担任として、学生の指導を行っている。
② 作成した教科書、教材、参考書		
教科書の作成	2005年～現在	教室員が執筆に加わった小児科教科書を役立てている。 1) 新小児科学, 日本医事新報社, 2005年, 第2版. 2) 小児科学・新生児学テキスト, 第5版, 診断と治療社, 2007年. 3) 講義録小児科学, メジカルビュー社, 2008年. 4) 専門医をめざす小児科試験問題集, 中山書店, 2009年.
講義資料の工夫	2004年5月～現在	授業にはシラバスのほかに、内容の要約に参考資料を添付した教材を作成し、毎回の授業時に配布し、学生の理解と学習の一助としている。
③ 教育方法・教育実践に関する発表、講演・その他教育活動上特記すべき事項		
1) 有阪 治 “臨床系講義の工夫について”	2008年3月(於、大学臨床講堂)	FD委員会の要請により第2回医学教育講習会において、医学部学生に対する講義のありかた・講義の工夫に関する講演を、小児科講義事例をも

<p>2) 医学生として視野を広げる教育</p>	<p>2004年5月～現在</p>	<p>とに行った。</p> <p>医学生として、より深く患者を理解し、コメディカルとの連携を経験させ、医師としての視野を広げることを目的として、教室の主宰する小児糖尿病サマーキャンプ（2泊3日）、小児ぜんそくサマーキャンプ（2泊3日）、小児難病の家族ハイキングに学生を積極的に参加させている。アーリーイクスプोजチャーとしての意義も考慮し、医学部1年生から参加を受け入れている。参加者の中から、小児科専攻を希望する者も出ている。</p> <p>また、小児科の特定の分野に興味ある学生が、学会に参加する希望を示したときは、積極的に促し、それを援助している。</p>
--------------------------	-------------------	---

教育・研究業績書

講座名	職名	氏名	
小児科学	教授	有阪 治	大学院の研究指導担当資格 有
Ⅱ 学会等および社会における主な活動			
1977年 4月～現在		日本小児科学会会員	
1978年 10月～現在		日本小児栄養消化器病学会員	
1979年 10月～現在		日本小児内分泌学会員	
1986年 10月～現在		日本小児体液研究会員	
1990年 10月～現在		日本内分泌学会員	
1990年 4月～現在		日本小児内分泌学会評議員	
1990年 10月～現在		日本生殖内分泌学会員・評議員	
1995年 10月～現在		日本神経内分泌学会員	
1997年 10月～現在		日本小児脂質研究会	
1998年 4月～現在		日本小児科学会代議員	
1998年 5月～現在		日本肥満学会員	
1998年 4月～現在		日本小児科学会代議員	
1998年 4月～現在		日本小児保健協会員	
1999年 10月～現在		日本小児脂質研究会運営委員	
1999年 5月～現在		日本腎臓学会員	
1999年 5月～現在		日本アレルギー学会員	
2000年 4月～現在		日本内分泌学会代議員	
2000年 5月～現在		日本未熟児新生児学会員	
2000年 5月～現在		日本周産期新生児医学会員	
2000年 5月～現在		日本小児神経学会員	
2000年 10月～現在		日本糖尿病学会員	
2002年 4月～2008年 4月		日本小児保健協会評議員	
2002年 4月～現在		日本小児内分泌学会理事	
2003年 4月～現在		日本小児栄養研究会員・理事	
2007年 4月～現在		日本肥満治療学会評議員	
社会への貢献（全国）			
2004年 1月～2005年 12月		日本学術振興会科学研究費委員会専門委員	
2006年 8月～2007年 7月		日本学術振興会国際事業委員会書面審査員	
2006年 4月～現在		日本小児科学会中央資格認定委員会委員	
2009年 4月～現在		同 副委員長	
2003年 4月～現在		日本小児科学会専門医試験委員	
1989年 4月～現在		成長科学協会地区委員（小児）	
2007年 4月～現在		成長科学協会地区委員（成人）	

2008年 5月～現在	日本小児内分泌学会薬事委員長
社会への貢献（地域）	
1998年 5月～現在	栃木県つぼみの会糖尿病サマーキャンプ実行委員長
2002年 4月～2004年 3月	日本小児科学会栃木県地方会会長
2003年 4月～現在	財団法人栃木県保健衛生事業団学術委員
2004年 3月～2006年 3月	栃木県小児保健会会長
2004年 4月～2008年 3月	栃木県医師会代議員
2004年 4月～2008年 3月	栃木県医療対策協議会委員
2004年 4月～2008年 3月	独立行政法人国立病院機構栃木病院地域医療研修センター運営協議会委員
2004年 4月～2008年 3月	栃木県医療対策協議会委員
2004年 4月～2008年 1月	新型インフルエンザ対策専門委員会委員
2005年 5月～2008年 1月	栃木県臨床研修医確保対策委員会委員
2005年 12月～2008年 3月	栃木県地域医療対策協議会委員
2006年 4月～2008年 3月	日本小児科学会栃木県地方会会長
2009年 4月～現在	栃木県医療廃棄物処理対策検討委員会委員

Ⅲ 研究活動

【学位論文】

【著 書】

和文

1. 有阪 治: その他の代謝異常と肥満. 日本肥満学会編, 小児の肥満症マニュアル医歯薬出版株式会社, pp. 93-98, 2004
2. 有阪 治: 高血圧・心臓病と肥満. 日本肥満学会編, 小児の肥満症マニュアル医歯薬出版株式会社, pp99-105, 2004
3. 有阪 治: ADH・HANP. 五十嵐隆, 大園恵一編, 小児の診断指針(第4版), 医学書院, 東京, pp 473-475, 2004
4. 有阪 治: 脳の性差. 油井邦雄, 他編, 実践・女性精神医学-ライフサイクル・ホルモン・性差. 創造出版, 東京, pp295-298, 2005
5. 有阪 治: 下垂体機能低下症. 大関武彦, 他編, 今日の小児治療指針, 第14版, 医学書院, 東京, pp182-183, 2006
6. 有阪 治: 発生, 成長, 発達, 加齢. 飯沼一字, 有阪 治, 竹村 司, 渡辺 博編, 小児科学・新生児学テキスト, 第5版, 診断と治療社, pp7-25, 2007
7. 有阪 治: 治療. 飯沼一字, 有阪 治, 竹村 司, 渡辺 博編, 小児科学・新生児学テキスト, 第5版, 診断と治療社, pp128-136, 2007
8. 有阪 治: 内分泌疾患. 飯沼一字, 有阪 治, 竹村 司, 渡辺 博編, 小児科学・新生児学テキスト, 第5版, 診断と治療社, pp 235-281, 2007
9. 有阪 治: 乳幼児期の食育 食育の観点から考える生活習慣病予防, 小児保健シリーズ No61, 日本小児保健協会. pp37-45, 2007
10. 有阪 治: 子どもの肥満と年齢区分. 岡田知雄編, よくわかる子どもの肥満, 永井書店, pp21-25, 2008
11. 有阪 治: 子どもの肥満の予防と治療, 予後. 岡田知雄編, よくわかる子どもの肥満, 永井書店, pp 26-34, 2008

12. 有坂 治 : 高脂血症と肥満. 岡田知雄編, よくわかる子どもの肥満, 永井書店, pp 114-119, 2008
13. 有坂 治 : Adiposity rebound, food intake, and early growth. 岡田知雄編, よくわかる子どもの肥満, 永井書店, pp160-163, 2008
14. 有坂 治 : 発育期の区分 . 佐地勉, 有坂治, 大澤真木子, 近藤直美, 竹村司編, 講義録 小児科学, メジカルビュー社, pp2-3, 2008
15. 有坂 治 : 成長に影響する因子. 佐地勉, 有坂治, 大澤真木子, 近藤直美, 竹村司編, 講義録 小児科学, メジカルビュー社, pp4-5, 2008
16. 有坂 治 : 成長の評価. 佐地勉, 有坂 治, 大澤真木子, 近藤直美, 竹村司編, 講義録 小児科学, メジカルビュー社, pp6-7, 2008
17. 有坂 治 : 輸液, 電解質・酸塩基平衡, 輸液. 佐地勉, 有坂治, 大澤真木子, 近藤直美, 竹村司編, 講義録 小児科学, メジカルビュー社, pp54-57, 2008
18. 有坂 治 : 脱水症. 佐地勉, 有坂治, 大澤真木子, 近藤直美, 竹村司編, 講義録 小児科学, メジカルビュー社, p84-85, 2008
19. 有坂 治 : 下垂体後葉疾患. , 佐地勉, 有坂治, 大澤真木子, 近藤直美, 竹村司編, 講義録 小児科学, メジカルビュー社, pp292-294, 2008
20. 有坂 治 : 腸重積症. 佐地勉, 有坂治, 大澤真木子, 近藤直美, 竹村司編, 講義録 小児科学, メジカルビュー社, pp770-771, 2008
21. 有坂 治 : 血清脂質異常とその評価, 小児のメタボリックシンドローム, 大関武彦, 藤枝憲二編, 診断と治療社, 41-48, 2008
22. 有坂 治 : 下垂体機能亢進症. 大関武彦, 近藤直実編, 小児科学, 第3版, 医学書院, pp1495-1497, 2008
23. 有坂 治 : 思春期の発来とその異常. 大関武彦, 近藤直実編, 小児科学, 第3版, 編医学書院, pp1497-1502, 2008
24. 有坂 治 : 思春期早発症. 山口徹, 北原光男, 福井次矢編, 今日の治療指針2009, 医学書院, pp. 1037-1038, 2008
25. 有坂 治 : adiposity rebound. 小児メタボリックシンドローム. 五十嵐隆, 大関武彦編, 小児科臨床ピクシス6, 中山書店, pp. 30-31, 2009
26. 有坂 治 : 尿崩症. 内山聖, 安次嶺馨編, 現場で役立つ小児救急アトラス, 西村出版, pp. 308-309, 2009
27. 有坂 治 : 内分泌疾患, 五十嵐隆, 水口雅編, 小児科試験問題集, 中山書店, pp105- 125, 2009

【原 著】

欧文

1. Arisaka O, Kojima M, Yamazaki Y, Kanazawa S, Koyama S, Shimura N, Okada T : Relationship between the presence of small, dense low-density lipoprotein and plasma lipid phenotypes in Japanese children. J Atheroscler Thromb 11:220-223, 2004
2. Arisaka O, Koledova E, Kanazawa S, Koyama S, Shimura N : problems of GHD children undergoing GH therapy in Japan. Clin Pediatr Endocrinol 15:163-176, 2006
3. Arisaka O, Koyama S: Leydig cell hypoplasia. Nippon Rinsho 28(Suppl 2): 545- 549, 2006.
4. Arisaka O, Yamazaki Y, Ichikawa G, Shimura N: Cardiovascular risk markers in adolescent girls with anorexia nervosa. J Pediatr 151, e16, 2007

【症例報告】

【総 説】

和文

1. 有坂 治 : 新生児の甲状腺自己抗体. 臨床看護 30: 1003-1006, 2004
2. 有坂 治 : 学術 小児の多尿-尿崩症を中心に. 日本医事新報 No. 4295, 57-63, 2006
3. 有坂 治 : 小児疾患の診断治療基準, 第3版, 中枢性尿崩症. 小児内科 202-203, 2006
4. 有坂 治 : 症候からみた小児の診断学. 嘔吐. 小児科診療 70:59-61, 2007
5. 有坂 治. 小児肥満の現状と問題点-とくに生活習慣との関係について. 臨床栄養 110: 812-818, 2007
6. 有坂 治 : 幼児BMIリバウンドと成人肥満. 日本医師会雑誌 136: 900- 901, 2007
7. 有坂 治 : 水と電解質の一日必要量と出納寮のバランス (in and out) . 腎と透析 63 : 51-54, 2007
8. 有坂 治 : よくわかる小児内分泌代謝疾患の診断と治療. 下垂体機能低下症. 小児科 48:1557-1566, 2007
9. 有坂 治 : 小児内分泌疾患の診断の手引き. いかに診断して治療するか. 尿崩症. 小児内科 40:1755-1761, 2008
10. 有坂 治 : 小児疾患診療のための病態生理 I , 第4版, 中枢性尿崩症. 小児内科 40 : 690-695, 2008
11. 有坂 治 : 食育の観点から考える生活習慣病. 栃木県小児科医会会報誌 14:2-3, 2008
12. 有坂 治 : HAIR-AN 症候群. 小児科診療 72 : 323, 2009

【そ の 他】

和文

1. 有坂 治, 小嶋恵美, 尾股普子, 志村直人 : BMIの変動と低比重リポ蛋白LDL粒子径との関係, 個厚生労働省科学研究費補助金・循環器疾患等総合研究事業, 小児期メタボリック症候群の概念・病態・診断基準の確立及び効果的介入に関するコホート研究, 平成17 年度研究報告書, pp47-48, 2006
2. 有坂 治, 市川剛, 小嶋恵美, 志村直人 : 出生コホート小児におけるBMIの変動とsmall, dense LDL粒子径との関係, 個厚生労働科学研究費補助金・循環器疾患等総合研究事業, 小児期メタボリック症候群の概念・病態・診断基準の確立及び効果的介入に関するコホート研究, 平成 18 年度研究報告書, pp67-68, 2007
3. 有坂 治, 市川剛, 小嶋恵美, 志村直人 : 幼児期BMI reboundと 12 歳時の動脈硬化危険因子, small dense LDLとの関係. 厚生労働科学研究費補助金・循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業, 小児期メタボリック症候群の概念・病態・診断基準の確立及び効果的介入に関するコホート研究, 平成 17-19 年度総合研究報告書, pp5-8, 2008

共著

1. Suzumura H, Nitta A, Ono M, Arisaka O : Neonatal intractable atrial flutter successfully treated with intravenous flecainide. *Pediatr Cardiol.* 25: 154-156, 2004
2. Kano K, Nishikura K, Yamada Y, Arisaka O : No effect of fluvastatin on the bone mineral density of children with minimal change glomerulonephritis and some focal mesangial cell proliferation, other than an ameliorating effect on their proteinuria. *Clin Nephrol* 63:74-79, 2005
3. Kanazawa S, Kojima M, Koyama S, Arisaka O : Effect of testosterone on bone mineral gain: Observation on the male patients with growth hormone deficiency and normal gonadotropin secretion. *Clin Pediatric Endocrinol* 13:78-82, 2004

4. Kojima M, Kanno H, Yamazaki Y, Koyama S, Kanazawa S, Shimura N, Arisaka O: Association of low-density lipoprotein particle size distribution and cardiovascular risk factors in children. *Acta Paediatr* 94: 281-286, 2005
5. Nitta A, Suzumura H, Kano K, Arisaka O: Congenital left brachiocephalic vein and superior vena cava aneurysms in an infant. *J Pediatr* 147:405, 2005
6. Kano K, Yamada Y, Nishikura K, Kojima E, Arisaka O: Low bone mineral density in nephrotic children with steroid dependence and/or frequent relapsers. *Clin Nephrol* 64:323-324, 2005
7. Negishi M, Kano K, Shimura N, Arisaka O: Hypocalcemia due to tubular dysfunction in a patient with holoprosencephaly. *Clin Exp Nephrol* 9: 244- 246, 2005
8. Nitta A, Suzumura H, Kano-k, Arisaka O: Congenital toxoplasmosis complicated with central diabetes insipidus in the first week of life. *J Pediatr* 148:283, 2006
9. Nitta A, Nishikura K, Hirao J, Suzumura H, Yoshihara S, Arisaka O: Congenital left brachiocephalic vein and superior vena cava aneurysms in an infant: an update. *J Pediatr* 148:708-709, 2006
10. Kano K, Arisaka O: Stress barometer at diagnoses in children with school non- attendance. *Pediatr Int* 48:265-267, 2006
11. Yoshihara S, Morimoto H, Ohori M, Yamada Y, Abe T, Arisaka O. Cannabinoid receptor agonists inhibit Ca(2+) influx to synaptosomes from rat brain. *Pharmacology* 76:157-162, 2006
12. Imataka G, Nitta A, Suzumura H, Watanabe H, Yamanouchi H, Arisaka O: Survival of trisomy 18 cases in Japan. *Genet Couns* 18:303-308, 2007.
13. Kurosawa H, Matsunaga T, Shimura N, Nakajima D, Hagiwara S, Fukushima K, Sugita K, Phyo K, Arisaka O: Successfully treated acute lymphoblastic leukemia associated with craniopharyngioma. *J Pediatr Hematol Oncol* 29:416-419, 2007
14. Imataka G, Ogino M, Nakagawa E, Yamanouchi H, Arisaka O: Electroencephalography- guided resection of dysembryoplastic neuroepithelial tumor: case report. *Neurol Med Chir (Tokyo)* 48: 318-321, 2008
15. Matsunaga T, Kurosawa H, Okuya M, Nakajima D, Hagiwara S, Sato Y, Fukushima K, Sugita K, Arisaka O: Chronic active Epstein-Barr virus infection with mosquito allergy successfully treated with reduced- intensity unrelated allogeneic bone marrow transplantation in a boy. *Pediatr Transplant* 13:231-234, 2009
16. Miyamoto K, Tsuboi T, Suzumura H, Arisaka O: Relationship between aortic intima-media thickening, serum IGF-I and low-density lipoprotein particle diameter in newborns with Intrauterine growth restriction. *Clin Pediatr Endocrinol* 18:55-64, 2009

教育・研究業績書

講座名	職名	氏名	
小児科学	教授	杉田 憲一	大学院の研究指導担当資格 有
Ⅱ 学会等および社会における主な活動			
1975年4月～現在	日本小児科学会、代議員		
1977年9月～現在	日本小児血液学会、評議員		
1978年10月～現在	日本血液学会、代議員		
1979年12月～現在	日本免疫学会		
1986年4月～現在	日本小児がん学会、評議員		
1995年3月～現在	栃木県骨髄バンク推進委員会		
2008年7月～現在	日本小児保健協会、代議員		
Ⅲ 研究活動			
【学位論文】			
【著 書】			
和文			
1. 杉田憲一. 白血病治療関連二次がんについての説明と同意. 小児血液悪性疾患 土田昌宏 (編) p89-97. 医薬ジャーナル社 大阪市 2004.			
2. 杉田憲一. 白血病治療の副作用、合併症の診断、治療、予防 3) 小児白血病の晩期障害 みんなに役立つ白血病、大野竜三、宮脇修一 (編)、p 215-222. 医薬ジャーナル社、大阪市 2004.			
3. 杉田憲一、アレルギー紫斑病. 「講義録 小児科学」有阪治他編集. メジカルビュー社、2007.			
【原 著】			
欧文			
1. Taketani T, Taki T, Ishii E, Hanada R, Tsuchida M, Sugita Kan, <u>Sugita Ken</u> , Hayashi Y: FLT3 mutations in the activation loop of tyrosine kinase domain are frequently found in infant acute lymphoblastic leukemia (ALL) with MLL rearrangement and pediatric ALL with hyperdiploidy. Blood 103:1085-1088,2004.			
2. Sato Y, Tsuboi Y, Kurosawa H, <u>Sugita K</u> , Eguchi M: Anti-apoptotic effect of nerve growth factor is lost in congenital insensitivity to pain with anhidrosis (CIPA) B lymphocytes. J Clin Immunol. 24: 302-308, 2004.			
3. Igarashi S, Manabe A, Ohara A, Kumagai M, Saito T, Okimoto Y, Kamiyo T, Isoyama K, Kajiwarra M, Sotomatsu M, <u>Sugita Ken</u> , Sugita Kan, Maeda M, Yabe H, Kinoshita A, Kaneko T, Hayashi Y, Ikuta K, Hanada R, Tsuchida M: No advantage of dexamethasone over prednisolone for the outcome of standard and intermediate risk childhood acute lymphoblastic leukemia in Tokyo Children's Cancer Study Group 195-14 protocol. J Clin Oncol 23: 6489-6498, 2005.			
4. <u>Sugita K</u> , Eguchi M: Suppressive effect of intravenous immunoglobulin on peripheral blood neutrophil count in patients with idiopathic thrombocytopenic purpura. J Ped Hematol/ Oncol 27: 7-10, 2005.			
5. <u>Sugita K</u> , Hirao J, Arisaka O, Eguchi M: γ -globulin-induced modulation with necrotic-like morphology of			

peripheral blood neutrophils. Eur J Pharmacol 213: 141-145, 2005.

6. Sugita K, Tsuboi T, Sato Y, Kurosawa H: Peripheral Blood CD25+CD4+T Cells in Childhood Patients Treated with Allogeneic Stem Cell Transplantation. Austral-Asian Journal of Cancer 6:xx-xx, 2007.

和文

1. 杉田憲一、松永貴之、今高城治、河口修子、佐藤雄也、黒澤秀光、江口光興：肺炎球菌、インフルエンザ菌による反復感染症に対するST合剤の効果. 小児科 45 2221-2224, 2004.
2. 佐藤雄也、仲島大輔、奥谷真由子、坪井龍生、松永貴之、萩沢進、黒澤秀光、杉田憲一、江口光興：小児血液腫瘍患者に対する中心静脈ラインの有効性の検討. 小児がん 42: 49-53, 2005.
3. 福島啓太郎、藤澤正英、仲島大輔、松永貴之、萩沢進、黒澤秀光、杉田憲一、有阪治. 小児白血病化学療法時の深在性真菌症に対するvoriconazoleによる治療 - 投与量と血中濃度の検討 - 臨床血液 48:402-406, 2007.
4. 加藤陽子、前田美穂、島崎晴代、新井心、有滝健太郎、菊池陽、後藤晶子、小林美由紀、杉田憲一、恒松由紀子、徳山美香、福永慶隆、藤沢康司、別所文雄、星順隆、細谷亮太、柳沢隆昭、森本克、土田昌宏. 血液悪性腫瘍医の視点からみた本邦における小児血液腫瘍患児に対する終末期緩和医療の現状と問題点. 小児がん 44:124-129, 2007.
5. 多賀崇、伊藤剛、浅見恵子、井上雅美、吉益哲、菊池陽、杉田憲一、鈴木信弘、真部淳、岩崎史記、小坂嘉之、右田昌宏、小原明. Congenital dyserythropoietic anemiaの全国調査. 日小血会誌 22:223-238, 2008.
6. 加藤陽子、前田美穂、島崎晴代、新井心、有滝健太郎、菊池陽、後藤晶子、小林美由紀、杉田憲一、恒松由紀子、徳山美香、福永慶隆、藤沢康司、別所文雄、星順隆、細谷亮太、柳沢隆昭、森本克己、土田昌宏. 血液悪性腫瘍医の視点からみた本邦における小児血液悪性腫瘍患児に対する終末期緩和医療の現状と問題点. 小児がん 44:124-129, 2007.
7. 五十嵐浩、白石裕比湖、杉田憲一、平尾準一、井原正博、菊池豊、小林靖明、石井徹、有阪治、上原里程、中村好一、桃井真理子. 川崎病のガンマグロブリン療法不応例の継続調査結果. 日本小児科学会雑誌 113:69-74, 2009.

【症例報告】

欧文

1. Matsunaga T, Kurosawa H, Tsuboi T, Kumazaki H, Sato Y, Sugita K, Ito E, Eguchi M: Recurrent erythroblastopenia associated with varizella-zoster virus infection in an infant. Pediatrics International 45: 355-358, 2003.
2. Sugita K, Maruo Y, Kurosawa H, Tsuchioka A, Fujiwara T, Mori A, Ideguchi H, Eguchi M. Severe hyperbilirubinemia in a 10-year-old girl with a combined disorder of hereditary spherocytosis and Gilbert syndrome. Pediatric Intern 49, 540-542, 2007.
3. Nitta A, Suzumura H, Watabe Y, Okuya M, Nakajima D, Kurosawa H, Sugita K, Arisaka O. Fetal hemophagocytic lymphohistiocytosis in a premature infant. J Pediatr 151:98, 2007.
4. Kurosawa H, Matsunaga M, Shimura N, Nakajima D, Hagiwara S, Fukushima K, Sugita K, Kim P, Arisaka O. Successfully treated acute lymphoblastic leukemia associated with craniopharyngioma. J Pediatr Hematol Oncol 29: 416-419, 2007.
5. Matsunaga T, Kurosawa H, Okuya M, Nakajima D, Hagiwara S, Sato Y, Fukushima K, Sugita K, Arisaka O. Chronic active Epstein Barr virus infection with mosquito allergy successfully treated with reduced intensity

unrelated allogeneic bone marrow transplantation in a boy. *Pediatr Transplantation* 2008.

6. Kurosawa H, Suzumura H, Okuya M, Fukushima K, Sugita K, Fujiwara T, Morishita E, Yoshioka A, Takamiya O, Arisaka O. Haemostatic management of surgery for imperforate anus in a patient with 13q deletion syndrome with combined deficiency of factors VII and X *Haemophilia* 15, 398-400, 2009.

和文

1. 奥谷真由子、松永貴之、坪井弥生、萩澤進、杉田憲一、黒澤秀光、江口光興：寛解導入療法中に合併した肺膿瘍に肺切除術を施行した急性リンパ性白血病の1女児例. *日小血会誌* 18:151-154, 2004
2. 黒澤秀光、坪井龍生、嶋岡鋼、奥谷真由子、仲島大輔、松永貴之、萩沢進、佐藤雄也、杉田憲一、江口光興：臍帯血移植にて長期寛解が得られているダウン症候群の急性単球性白血病. *臨床血液* 46: 274-277, 2005.
3. 西田光宏、萩沢進、平尾準一、杉田憲一、有阪治. 労作性熱中症に伴って肝障害を認めた3例. *小児科臨床* 61:1159-1162, 2008.
4. 佐藤雄也、市川剛、藤澤正英、今高城治、福島啓太郎、平尾準一、杉田憲一、有阪治. 健常年長児に発症した *Listeria monocytogenes* 髄膜脳炎 *小児科臨床* 62:251-255, 2009.

【総説】

1. 杉田憲一. 合成トロンビン薬. *小児科診療 (Suppl)* 67:461-466, 2004.
2. 杉田健一. 二次がん. *小児内科* 27:1245-1249, 2005.
3. 杉田憲一、有阪治. 小児リンパ性白血病治療後の晩期障害、特に幹細胞移植後の生活習慣病. *日小血会誌* 21:13-18, 2007.
4. 杉田憲一. 小児医療提供体制の現状：勤務医の立場から. *栃木母性衛生* 33:58-59, 2007
5. 杉田憲一. 小児医療提供体制の現況：勤務医の立場から. *小児保健栃木* 24:19-20, 2007
6. 杉田憲一. 小児救急医療. *獨協医学会雑誌* 34:251-256, 2007
7. 杉田憲一. 小児救急医療体制. *栃木県医学会会誌* 37: 157-160, 2007

【その他】

1. 杉田憲一. 熱中症. *健康教室* 59:11:2008.

教育・研究業績書

講座名	職名	氏名	
小児科学	准教授	加納 健一	大学院の研究指導担当資格 有
Ⅱ 学会等および社会における主な活動			
1976年3月～現在	日本小児腎臓病学会員		
1976年5月～現在	日本小児科学会員		
1976年11月～現在	日本腎臓学会員		
1986年5月～現在	日本小児科学会認定医		
1988年10月～現在	日本腎臓学会評議員		
2004年6月～2007年5月	日本小児腎臓病学会評議員		
Ⅲ 研究活動			
【学位論文】			
【著 書】			
【原 著】			
欧文			
1. <u>Kano K</u> , Kyo K, Ito S, Nishikura K, Ando T, Yamada Y, Arisaka O: Spinal epidural lipomatosis in children with renal diseases receiving steroid therapy. <i>Pediatr Nephrol</i> 20:184-189, 2005.			
2. <u>Kano K</u> , Nishikura K, Yamada Y, Arisaka O: No effect of fluvastatin on the bone mineral density of children with minimal change glomerulonephritis and some focal mesangial cell proliferation, other than on ameliorating effect on their protein. <i>Clin Nephrol</i> 63:74-79, 2005.			
3. <u>Kano K</u> , Yamada Y, Nishikura K, Kojima E, Arisaka O: Low bone mineral density in nephritic children with steroid dependence and/or frequent relapsers. <i>Clin Nephrol</i> 64:323-324, 2005.			
4. <u>Kano K</u> , Arisaka O: Stress barometer at diagnoses in children with school non-attendance. <i>Pediatrics Int</i> 48:265-267, 2006.			
5. <u>Kano K</u> , Arisaka O: Efficacy and safety of nasal desmopressin in the long-term treatment of primary nocturnal enuresis. <i>Pediatr Nephrol</i> 21:1211, 2006.			
6. <u>Kano K</u> , Sunagawa S, Shimura N, Arisaka O: Duration of isolation of children with influenza A treated with oseltamivir. <i>Eur J Pediatr</i> 166:185-186, 2007.			
和文			
1. <u>加納健一</u> , 西倉潔, 山田裕美, 有阪治: 小児ステロイド依存性ネフローゼ症候群におけるシクロスポリンの食後投与と食前投与との臨床効果の比較. <i>小児科臨床</i> 59:1595-1598, 2006.			
2. <u>加納健一</u> , 有阪治: 高校生の学校検尿について. <i>小児科臨床</i> 60:311-316, 2007.			
3. <u>加納健一</u> , 有阪治: 小児排尿機能未熟型夜尿症に対する徐放性酒石酸トルテロジンの短期効果. <i>小児科臨床</i> 60:1881-1884, 2007.			
4. <u>加納健一</u> , 砂川佐知子, 有阪治: 2006/2007年の野木病院小児科におけるインフルエンザの臨床的検討. <i>小児科臨床</i>			

【症例報告】

欧文

1. Kano K, Kojima M, Arisaka O: Improvement in anorexia nervosa by mother's breast cancer. J New Rem Clin 53:1392-1393, 2004.
2. Kano K, Yamada Y, Shiraiwa T, Shimizu A, Nishikura K, Arisaka O, Tomita S, Ueda Y: Effectiveness of high trough levels of cyclosporine for 5 months in a case of steroid-dependent nephritic syndrome with severe steroid toxicity. Nephrology 9:423-426, 2004
3. Kano K, Yamada Y, Sato Y, Arisaka O, Ono Y, Ueda Y: Glomerulonephritis in a patient with chronic active Epstein-Barr virus infection. Pediatr Nephrol 20:89-92, 2005.
4. Negishi M, Kano K, Shimura N, Arisaka O: Hypocalcemia due to tubular dysfunction in a patient with holoprosencephaly. Clin Exp Nephrol 9:244-246, 2005.
5. Kano K, Koyama S, Arisaka O: Tandospirone and dissociative disorders. J New Rem Clin 54:144-145, 2005
6. Nitta A, Suzumura H, Kano K, Arisaka O: Congenital left brachiocephalic vein and superior vena cava aneurysms in an infant. J Pediatr 147:4005, 2005.
7. Kano K, Nishikura K, Arisaka O: Does growth hormone therapy induce IgA nephropathy? Pediatr Nephrol 20:1821-1822, 2005.
8. Sato Y, Tsuboi T, Mikami T, Kurosawa H, Kanou K, Sugita K, Kimura H, Nagasaka T, Imashyuku S, Eguchi M: Chronic active Epstein-Barr virus infection with dilatation of the Valsalva sinus. Pediatr Int 48:643-645, 2006.
9. Nitta A, Suzumura H, Kano K, Arisaka O: Congenital toxoplasmosis complicated with central diabetes insipidus in the first week of life. J Pediatr 148:283, 2006.
10. Kano K, Nishikura K, Ohwada Y, Arisaka O: No effect of alendronate on bone mineral density and vertebral fracture in a nephritic boy treated with high-dose prednisone. J New Rem Clin 57:99-101, 2008.

【総説】

和文

1. 加納健一: 夜尿症児における長期デスマプレシン投与の有効性と安全性. 小児科臨床 59:1015-1021, 2006.
2. 加納健一: 小児期ステロイド性骨粗鬆症の予防と治療に関する最近の考え方. 小児科臨床 59:2185-2192, 2006.

【その他】

教育・研究業績書

講座名	職名	氏名	
小児科学	准教授	黒澤 秀光	大学院の研究指導担当資格 有
Ⅱ 学会等および社会における主な活動			
2003年1月～現在	日本小児血液学会評議員		
2003年1月～現在	日本小児がん学会評議員		
2007年11月～現在	日本小児血液学会白血病委員会委員		
2006年8月～現在	米国血液学会員		
2003年4月～現在	栃木県小児慢性特定疾患審査専門委員		
Ⅲ 研究活動			
【学位論文】			
【著 書】			
【原 著】			
欧文			
1. Matsunaga T, Inaba T, Matsui H, Okuya M, Miyajima A, Inukai T, Funabiki T, Endo M, Look AT, <u>Kurosawa H</u> : Regulation of annexin II by cytokine-initiated signaling pathways and E2A-HLF oncoprotein. Blood 103:3185-3191			
2. Sato Y, Tsuboi T, Mikami T, <u>Kurosawa H</u> , Kanou K, Sugita K, Kimura H, Nagasaka T, Imashyuku S, Eguchi M: Chronic active Epstein-Barr virus infection with dilatation of the Valsalva sinus. Pediatr Internationa. Pediatr Intern. 48: 643-645, 2006.			
3. Sugita K, Tsuboi T, Sato Y, <u>Kurosawa H</u> : Peripheral Blood CD25+CD4+T Cells in Childhood Patients Treated with Allogeneic Stem Cell Transplantation. Recent Advances Research Update 7:249-257, 2006.			
4. Inukai T, Hirose K, Inaba T, <u>Kurosawa H</u> , Hama A, Inada H, Chin M, Nagatoshi Y, Ohtsuka Y, Oda M, Goto H, Endo M, Morimoto A, Imaizumi M, Kawamura N, Miyajima Y, Ohtake M, Miyaji R, Saito M, Tawa A, Yanai F, Goi K, Nakazawa S, Sugita K: Hypercalcemia in childhood acute lymphoblastic leukemia: frequent implication of parathyroid hormone-related peptide and E2A-HLF from translocation 17;19. Leukemia 21:288 -296, 2007.			
5. Shinjyo T, <u>Kurosawa H</u> , Miyagi J, Ohama K, Masuda M, Matsui H, Inaba T, Furukawa Y, and Takasu N: Oncogenic ras regulates survivin expression via mitogen-activated protein kinase and phosphatidylinositol-3 kinase in mouse interleukin-3 dependent hematopoietic Baf-3 cells. Tohoku Journal of Experimental Medicine 216:25-34, 2008.			
6. Yabe M, Sako M, Yabe H, Osugi Y, <u>Kurosawa H</u> , Nara T, Tokuyama M, Adachi S, Kobayashi C, Yanagimachi M, Ohtsuka Y, Nakazawa Y, Ogawa C, Atsushi M, Kojima S and Nakahata T for a Japanese Childhood MDS Study Group. A conditioning regimen of busulfan, fludarabine, and melphalan for allogeneic stem cell transplantation in children with juvenile myelomonocytic leukemia. Pediatric Transplantation 12:862-867, 2008.			

和文

1. 福島啓太郎、藤澤正英、仲島大輔、松永貴之、萩澤進、黒澤秀光、杉田憲一、有阪治：
小児白血病化学療法時の深在性真菌症に対する voriconazole による治療—投与量と血中濃度の検討。臨床血液学会雑誌 48:402-406, 2007.
2. 富澤大輔、木下明俊、田淵健、井田孔明、太田節雄、清田知賀子、小池和俊、高橋浩之、黒澤秀光、気賀沢寿人、別所文雄。月本一郎、花田良二、土田昌弘。乳児期発症の急性骨髄性白血病の治療検討—東京小児がん研究グループ(TCCSG)13次および14次研究より 日本小児血液学会雑誌 22:14-20, 2008.

【症例報告】

欧文

1. Kurosawa H, Matsunaga T, Shimura N, Nakajima D, Hagsawa S, Fukushima K, Sugita K, Kim P, Arisaka O: Successfully treated acute lymphoblastic leukemia associated with craniopharyngioma. Journal of Pediatric Hematology/Oncology 29:416-419, 2007.
2. Sugita K, Maruo Y, Kurosawa H, Tsuchioka A, Fujiwara T, Mori A, Ideguchi H, Eguchi M: Sever hyperbilirubinemia in a 10-year-old girl with combined disorder of hereditary spherocytosis syndrome. Pediatr Int 49:540-542, 2007.
3. Nitta A, Suzumura H, Watabe Y, Okuya M, Nakajima D, Kurosawa H, Sugita K, Arisaka O: Fetal hemophagocytic lymphohistiocytosis in a premature infant. J Pediatr 151:98, 2007.
4. Kurosawa H, Suzumura H, Okuya M, Fukushima K, Sugita K, Fujiwara T, Morishita E, Yoshioka A, Takamiya O, and Arisaka O: Hemostatic management of surgery for imperforate anus in a patient with 13q deletion syndrome with combined deficiency of factors VII and X. Haemophilia 15: 398-400, 2009.
5. Matsunaga T, Kurosawa H, Okuya M, Nakajima D, Hagsawa S, Sato Y, Fukushima K, Sugita K, Arisaka O. Chronic active Epstein-Barr virus infection with mosquito allergy successfully treated with reduced intensity unrelated allogeneic bone marrow transplantation in a boy. Pediatric Transplantation, 13:231-234 2009.

和文

1. 奥谷真由子、松永貴之、坪井弥生、萩澤進、杉田憲一、黒澤秀光、江口光興：寛解導入療法中に合併した肺膿瘍に肺切除を施行した急性リンパ性白血病の一女兒例。日本小児血液学会雑誌 18:151-154, 2004.
2. 松永貴之、山本詩子、宮本健志、仲島大輔、坪井龍生、萩澤進、福島啓太郎、黒澤秀光、杉田憲一、金兼弘和、江口光興。緑膿菌敗血症で発症した好中球減少を伴うX連鎖性無γグロブリン血症の1例。日小血誌 20:101-104 2006.
3. 松永貴之、渡部功之、山本詩子、鈴木宏、黒澤秀光、杉田憲一、江口光興。Kidd式 (JKa) 不適合妊娠による新生児溶血性疾患の1例。小児科臨床 59: 1782-1794, 2006.

【総 説】

【そ の 他】

教育・研究業績書

講座名	職名	氏名	
小児科学	准教授	鈴木 宏	大学院の研究指導担当資格 有
Ⅱ 学会等および社会における主な活動			
1986年～現在	日本小児科学会 日本周産期・新生児医学会 日本未熟児新生児学会 日本遺伝カウンセリング学会 日本小児遺伝学会		
2004年12月～現在	日本未熟児新生児学会評議員		
2006年7月～現在	日本周産期・新生児医学会評議員		
Ⅲ 研究活動			
【学位論文】			
【著書】			
和文			
1. 鈴木宏：奇形・染色体異常. 河野寿夫編, ベッドサイドの新生児の診かた 南山堂, pp333-384, 2004.			
2. 鈴木宏：耳口蓋指症候群 (0. 日本整形外科学会・小児整形外科委員会編, 骨系統疾患マニュアル 南江堂, pp40-41, 2007.			
3. 鈴木宏：黄疸. 吐血・下血. 低血糖・インスリン過剰症. 微量元素欠乏症. 佐地勉, 有阪治, 大澤真木子, 近藤直実, 竹村司編, 講義録小児科学 メジカルビュー社, pp89-92, 128-130, 248-251, 264-266, 2008.			
【原著】			
欧文			
1. Suzuki N, <u>Suzumura H</u> . Relation between predischarge auditory brainstem responses and clinical factors in high-risk infants. <i>Pediatr Int</i> 46: 255-263, 2004.			
2. Yamanouchi H, Imataka G, Nakagawa E, Nitta A, Suzuki N, Hirao J, <u>Suzumura H</u> , Watanabe H, Arisaka O, Eguschi M. An analysis of epilepsy with chromosomal abnormalities. <i>Brain & Development</i> 27: 370-377, 2005.			
和文			
1. 本間洋子, 高橋尚人, 松原茂樹, 桃井真里子, 鈴木宏, 渡辺博, 稲葉憲之. 総合周産期母子医療センター開設が地域周産期医療に与えた影響の分析. <i>日本周産期・新生児誌</i> 40: 40-45, 2004.			
2. 今高城治, 杉田憲一, 江口光興, 鈴木宏, 太田順子, 渡辺博, 稲葉憲之. HIVキャリア妊婦および出生した児に対する周産期管理. <i>獨協医学誌</i> 31: 203-208, 2004.			
3. 河口修子, 今高城治, 鈴木宏, 山内秀雄. 新生児けいれんの病因と治療に関する研究. <i>脳と発達</i> 38: 5-9, 2006. 坪井弥生, 河口修子, 今高城治, 鈴木宏, 山内秀雄. <i>てんかん研究</i> 23: 215-222, 2005.			
4. 鈴木宏, 渡部功之, 新田晃久, 有阪治: 日齢14未満における早産児のfree thyroxine (free T4), thyroid stimulating hormone (TSH)値について. <i>日本周産期・新生児誌</i> 43: 100-105, 2007.			

5. 新田晃久, 渡部功之, 鈴木宏, 有阪治. 無呼吸回復刺激装置の試作および有用性の検討: 手指を用いない回復刺激を目的として. 未熟児新生児誌 19: 105-108, 2007.
6. 福田啓伸, 鈴木宏, 宮本健志, 栗林良多, 山崎弦, 渡部功之, 新田晃久, 有阪治. 新生児聴覚スクリーニングにおける要精査例に関する検討. 獨協医学誌 35: 19-25, 2008.

【症例報告】

欧文

1. Suzunura H, Nitta O, Ono M, Arisaka O. Neonatal intractable atrial flutter successfully treated with intravenous flecainide. *Pediatr Cardiol* 25: 154-156, 2004.
2. Nitta A, Suzumura H, Kano K, Arisaka O. Congeital left brachiocephalic vein and superior vena cava aneurysms in an infant. *J Pediatr* 147:405, 2005.
3. Suzumura H, Nitta A, Arisaka O. Cerebro-oculo-facio-skeletal syndrome complicated by congenital ichthyosis. *Clin Dysmorphol* 15: 39-40, 2006.
4. Imataka G, Mitsui M, Hashimoto T, Suzumura H, Hirao J, Yamanouchi H, Arisaka O. Clustered tonic spasms developed after disappearance of hypsarrhythmia in West syndrome. 獨協医学誌 34: 49-52, 2007.
5. Nitta A, Suzumura H, Watabe Y, Okuya M, Nakajima D, Kurosawa H, Sugita K, Arisaka O. Fetal hemophagocytic lymphohistiocytosis in a premature infant. *J Pediatr* 151: 98, 2007.
6. Kurosawa H, Suzumura H, Okuya M, Fukushima K, Sugita K, Fujiwara T, Morishita E, Yoshioka A, Takamiya O, Arisaka O. Haemostatic management of surgery for imperforate anus in a patient with 13q deletion syndrome with combined deficiency of factors 7 and 10. *Haemophilia* 15: 398-400, 2009.
7. Kuwashima S, Kitajima K, Kaji Y, Watanabe H, Watabe y, Suzumura H. MR imaging appearance of laryngeal atresia (congenital high airway obstruction syndrome): unique course in a fetus. *Pediatr Radiol* 38: 344-347, 2008.

和文

1. 松永貴之, 渡部功之, 山本詩子, 鈴木宏, 黒澤秀光, 杉田憲一, 江口光興. Kidd式血液型 (JKa) 不適合妊娠による新生児溶血性疾患の1例. 小児科臨床 59: 1792-1794, 2006.

【総 説】

和文

1. 鈴木宏: Otopalatodigital syndrome type 1/2. 小児内科 36:244-246, 2004.
2. 鈴木宏: 新生児集中治療室の児, および慢性肺疾患の児の診療における耳鼻咽喉科医の関与. 小児耳鼻咽喉科 26: 19-23, 2005.
3. 鈴木宏: 黄疸の検査. 周産期医学 36: 783-785, 2006.
4. 鈴木宏: 新生児における黄疸のスクリーニング 97: 583-587, 2008.
5. 鈴木宏, 有阪治: 早産児一過性低サイロキシシン血症の問題点. 日児誌 113: 808-816, 2009.

【そ の 他】

和文

1. 鈴木宏, 新田晃久, 坪井弥生, 渡部功之, 渡辺博, 稲葉憲之, 有阪治: 早産児のRSウイルス感染予防のためのパリーブズマブ投与: その効果と副作用. 栃木県産婦人科医報 34: 4-7, 2007.
2. 鈴木宏: 早産児RSウイルス感染症予防のためのパリーブズマブ投与—赤ちゃんに関わる医療スタッフが知っておくべき情報. 小児保健栃木 26: 44-48, 2009.

教育・研究業績書

講座名 小児科学	職名 准教授	氏名 山内 秀雄	大学院の研究指導担当資格 有
Ⅱ 学会等および社会における主な活動			
	6月30日付退職		
Ⅲ 研究活動			
<p>【学位論文】</p> <p>【著 書】</p> <p>【原 著】</p> <p>【症例報告】</p> <p>【総 説】</p> <p>【その他】</p>			

教育・研究業績書

講座名	職名	氏名	
小児科学	准教授	吉原 重美	大学院の研究指導担当資格 有
Ⅱ 学会等および社会における主な活動			
1983年 9月～現在	日本小児科学会会員		
1983年 11月～現在	日本小児アレルギー学会会員		
1984年 6月～現在	日本アレルギー学会会員		
1990年 4月～現在	日本小児呼吸器疾患学会会員		
1992年 10月～現在	日本ニューロペプチド研究会幹事		
1994年 5月～現在	アメリカ胸部疾患学会会員		
1995年 10月～現在	日本呼吸器学会会員		
1996年 4月～現在	日本小児難治喘息アレルギー疾患学会会員		
1996年 4月～現在	日本アレルギー学会代議員		
1996年 8月～現在	日本小児アレルギー学会評議員		
1997年 11月～現在	日本小児呼吸器疾患学会運営委員		
1997年 11月～現在	日本小児呼吸器疾患学会将来構想委員		
1997年 11月～現在	日本小児呼吸器疾患学会セミナー委員		
1998年 11月～現在	日本小児呼吸器疾患学会情報処理委員会委員長		
1999年 7月～現在	日本医学教育学会会員		
2001年 4月～現在	栃木県小児アレルギーフォーラム事務局長		
2001年 11月～現在	日本時間生物学会会員		
2002年 6月～現在	日本アレルギー学会認定試験問題作成委員		
2004年 2月～現在	日本小児アレルギー学会気管支喘息治療・管理ガイドライン委員		
2004年 4月～現在	慢性呼吸器疾患予防コントロール WHO 協力センター委員		
2004年 6月～現在	日本小児難治喘息アレルギー疾患学会理事		
2005年 4月～現在	栃木県小児慢性特定疾患審査委員		
2005年 4月～現在	獨協大学子どもの救済と支援のためのリーガルセンター委員		
2005年 4月～現在	臨床医のための小児アレルギー誌 (Excerpta Medica) 編集委員		
2005年 6月～現在	日本旅行医学会会員		
2005年 8月～現在	日本小児アレルギー学会理事		
2005年 8月～現在	日本小児アレルギー学会雑誌編集委員		
2005年 8月～現在	日本小児アレルギー学会規約委員		
2006年 4月～現在	International Review of Asthma(メデイカルレビュー社)編集委員		
2006年 6月～現在	日本小児難治喘息アレルギー疾患学会雑誌編集委員		
2006年 6月～現在	日本小児難治喘息アレルギー疾患学会薬事委員長		
2007年 2月～現在	日本小児臨床薬理・アレルギー免疫研究会運営委員		
2007年 4月～現在	日本小児呼吸器疾患学会国際交流委員		
2007年 6月～現在	日本アレルギー学会学術大会委員		

2007年 8月～現在	日本小児アレルギー学会研究推進委員
2007年 11月～現在	日本時間生物学会評議員
2008年 6月～現在	日本呼吸器学会プログラム委員
2009年 3月～現在	国際喘息学会日本北アジア部会幹事
2009年 4月～現在	文部科学省都賀町栄養教諭を中核とした食育推進事業運営委員

Ⅲ 研究活動

【学位論文】

【著 書】

欧文

1. Yoshihara S: Childhood asthma. In: Present status of prevalence and management of chronic respiratory disease in Asia-Pacific. Ed. by Sohei Makino, Elsevier, Tokyo, pp79-81, 2006.
2. Akiyama K, Dobashi K, Fukuchi Y, Haida M, Kawashiro T, Keicho N, Kida K, Kohno Y, Ohta K, Okubo K, Fukuda T, Yoshihara S, Sagara H : Chronic respiratory diseases in Japan. In: Present status of prevalence and management of chronic respiratory disease in Asia-Pacific. Ed. by Sohei Makino, Elsevier, Tokyo, pp19-27, 2006.

和文

1. 吉原重美: アレルギー性上気道炎. 福田健編, 総合アレルギー学 南山堂, pp630-636, 2004.
2. 吉原重美, 阿部利夫: これだけは知っておきたい気管支喘息の基礎知識. 田中一正編, 永井書店, pp 107-116, 2004.
3. 吉原重美: 閉塞性細気管支炎. 山城雄一郎監, 新小児科学改訂第2版, 日本医事新報社, pp41-42, 2005.
4. 吉原重美: クループ症候群(急性喉頭蓋炎を含む). 山城雄一郎監, 新小児科学改訂第2版, 日本医事新報社, pp123-124, 2005.
5. 吉原重美: 気管支喘息の診断と治療. 山城雄一郎監, 新小児科学改訂第2版, 日本医事新報社, pp 183-184, 2005.
6. 吉原重美: 食物アレルギー. 山城雄一郎監, 新小児科学改訂第2版, 日本医事新報社, pp 186-187, 2005.
7. 吉原重美: 若年性特発性関節炎とマクロファージ活性化症候群. 山城雄一郎監, 新小児科学改訂第2版, 日本医事新報社, pp188-189, 2005.
8. 吉原重美: テオフィリン. 五十嵐隆編, 小児臨床検査ガイド, 文光堂, pp616-618, 2006.
9. 吉原重美: 乳児喘息の治療と治療の考え方. 齊藤博久監, 小児アレルギーシリーズ喘息, 診断と治療社, pp20-24, 2006.
10. 吉原重美: 私の処方箋; 1歳・繰り返す喘鳴・病態を年長児と同様に考えて抗炎症治療を施すべきか? 齊藤博久監, 小児アレルギーシリーズ喘息, 診断と治療社, p13, 2006.
11. 吉原重美: 私の処方箋; 17歳・喘息患者が妊娠したときの投薬と注意点. 齊藤博久監, 小児アレルギーシリーズ喘息, 診断と治療社, pp193-194, 2006.
12. 阿部利夫, 吉原重美: 気胸・縦隔腫瘍. 小児内科・小児外科編, 小児疾患の診断治療基準第3版, pp 462-463, 2006.
13. 吉原重美: 小児科からみたアレルギー性上気道炎. 宮本昭正監, 臨床アレルギー学改訂第3版, 南江堂, pp482-488, 2007.
14. 山田裕美, 吉原重美: EBMに基づく急性細気管支炎の治療は? 五十嵐隆他編, EBM小児疾患の治療 2007-2008, 中外医

- 学社, pp38-40, 2007.
15. 吉原重美, 小野三佳: 肺の形成異常(肺無形成、肺低形成). 佐地勉他編, 講義録小児科学, メジカルビュー社, pp425-426, 2008.
 16. 吉原重美, 阿部利夫: 胸膜縦隔疾患(気胸、縦隔気腫). 佐地勉他編, 講義録小児科学, メジカルビュー社, pp427-429, 2008.
 17. 阿部利夫, 吉原重美: 中葉症候群(舌区症候群). 新領域別症候群シリーズ, 呼吸器症候群第2版, 日本臨床社, pp 319-321, 2008.
 18. 山田裕美, 吉原重美: 非アトピー型喘息. 新領域別症候群シリーズ, 呼吸器症候群第2版, 日本臨床社, pp126-127, 2009.
 19. 吉原重美: 吸入ステロイド薬—小児. 足立満編, インフォームドコンセントのための図説シリーズ喘息改訂3版, 医薬ジャーナル社, pp 58-63, 2009.
 20. 吉原重美, 小野三佳: 乳児喘息の急性発作. 五十嵐隆編, 小児科臨床ピクシス:年代別アレルギー疾患への対応, 中山書店, pp106-109, 2009.
 21. 吉原重美: 喘息がありますが, 特に注意することを教えてください. 日本旅行医学会編, 旅行医学質問箱, メジカルビュー社, pp 230-231, 2009.
 22. 吉原重美: 呼吸器疾患で注意することを教えてください. 日本旅行医学会編, 旅行医学質問箱, メジカルビュー社, pp232-233, 2009.
 23. 吉原重美: アスピリン喘息とはどういうものですか? 日本旅行医学会編, 旅行医学質問箱, メジカルビュー社, pp234-235, 2009.

【原 著】

欧文

1. Yoshihara S, Morimoto H, Yamada Y, Abe T, Arisaka O: Cannabinoid receptor agonists inhibit sensory nerves activation in guinea-pig airways. *Am J Respir Crit Care Med* 170: 941-946, 2004.
2. Yoshihara S, Yamada Y, Abe T, Kashimoto K, Lindén A. Arisaka O: Long Lasting smooth muscle relaxation by a novel PACAP analogue in human bronchi. *Regul Pept* 123:161-165, 2004.
3. Yamada Y, Yoshihara S, Arisaka O: Creola Bodies in wheezing infants predict the development of asthma. *Pediatr Allergy Immu* 15:159-162, 2004.
4. Sergejeva S, Hoshino H, Yoshihara S, Kashimoto K, Lötval J, Lindén A: Synthetic VIP peptide analogue inhibits neutrophil recruitment in rat airways in vivo. *Regul Pept* 117: 149-154, 2004.
5. Yoshihara S, Morimoto H, Ohori M, Yamada Y, Abe T, Arisaka O: The cannabinoid receptor agonist WIN55212-2 inhibits neurogenic inflammation in airway tissues. *J Pharmacol Sci* 98:77-82, 2005.
6. Yoshihara S, Morimoto H, Yamada Y, Abe T, Arisaka O: A neuroactive steroid, allotetrahydrocorticosterone inhibits sensory nerves activation in guinea-pig airways. *Neurosci Res* 53: 210-215, 2005.
7. Yoshihara S, Morimoto H, Yamada Y, Abe T, Arisaka O: Endogenous cannabinoid receptor agonists inhibit neurogenic inflammations in guinea-pig airway. *Int Arch Allergy Immunol* 138: 80-87, 2005.
8. Umenishi F, Yoshihara S, Narikiyo T, Schrier RW: Modulation of hypertonicity-induced aquaporin-1 by sodium chloride, urea, betaine, and heat shock in murine renal medullary cells. *J Am Soc Nephrol* 16: 600-607,

- 2005.
9. Hirota T, Suzuki Y, Hasegawa K, Obara K, Matsuda A, Akahoshi M, Nakashima K, Cheng L, Takahashi N, Shimizu M, Doi S, Fujita K, Enomoto T, Ebisawa M, Yoshihara S, Nakamura Y, Kishi F, Shirakawa T, Tamari M: Functional haplotypes of IL-12B are associated with childhood atopic asthma. *J Allergy Clin Immunol* 116: 789-95, 2005.
 10. Yoshihara S, Morimoto H, Ohori M, Yamada Y, Abe T, Arisaka O: A neuroactive steroid inhibits guinea-pig airway sensory nerves via Maxi-K⁺ channels activation. *Int Arch Allergy Immunol* 141: 31-36, 2006.
 11. Yoshihara S, Yamada Y, Abe T, Arisaka O: The use of a patch formulation of tulobuterol, a long-acting β_2 -adrenoreceptor agonist, in the treatment of severe pediatric asthma. *Ann Allergy Asthma Immunol* 96: 879-880, 2006.
 12. Yoshihara S, Yamada Y, Abe T, Lindén A, Arisaka O: Association of epithelial damage and signs of neutrophil mobilization in the airways during acute exacerbations of pediatric asthma. *Clin Exp Immunol* 144: 212-216, 2006.
 13. Yoshihara S, Morimoto H, Ohori M, Yamada Y, Abe T, Arisaka O: Cannabinoid receptor agonists inhibit Ca²⁺ influx to synaptosomes from rat brain. *Pharmacology* 76:157-162, 2006.
 14. Yoshihara S, Kanno N, Yamada Y, Ono M, Fukuda N, Numata M, Abe T, Arisaka O: Effects of early intervention with inhaled sodium cromoglycate in childhood asthma. *Lung* 184: 63-72, 2006.
 15. Nakashima K, Hirota T, Obara K, Shimizu M, Jodo A, Kameda M, Doi S, Fujita K, Shirakawa T, Enomoto T, Kishi F, Yoshihara S, Matsumoto K, Saito H, Suzuki Y, Nakamura Y, Tamari M: An association study of asthma and related phenotypes with polymorphisms in negative regulator molecules of the TLR signaling pathway. *J Hum Genet* 51:284-291, 2006.
 16. Nakashima K, Hirota T, Obara K, Shimizu M, Doi S, Fujita K, Shirakawa T, Enomoto T, Yoshihara S, Ebisawa M, Matsumoto K, Saito H, Suzuki Y, Nakamura Y, Tamari M: A functional polymorphism in MMP-9 is associated with childhood atopic asthma. *Biochem Biophys Res Commun* 344:300-307, 2006.
 17. Nakashima K, Hirota T, Suzuki Y, Akahoshi M, Shimizu M, Jodo A, Doi S, Fujita K, Ebisawa M, Yoshihara S, Enomoto T, Shirakawa T, Kishi F, Nakamura Y, Tamari M: Association of the RIP2 gene with childhood asthma. *Allergol Int* 55: 77-83, 2006.
 18. Hatsushika K, Hirota T, Harada M, Sakashita M, Kanzaki M, Takano S, Doi S, Fujita K, Enomoto T, Ebisawa M, Yoshihara S, Sagara H, Fukuda T, Masuyama K, Katoh R, Matsumoto K, Saito H, Ogawa H, Tamari M, Nakao A.: Transforming growth factor-beta(2) polymorphisms are associated with childhood atopic asthma. *Clin Exp Allergy* 37:1165-1174, 2007.
 19. Yoshihara S, Yoshida T, Kurosaka F, Arisaka O, Furusho K: Survey of childhood asthma and use of inhaled therapy in the home in Japan using the Internet. *Pediatric International* 50: 495-499, 2008.
 20. Hirota T, Harada M, Sakashita M, Doi S, Miyatake A, Fujita K, Enomoto T, Ebisawa M, Yoshihara S, Noguchi E, Saito H, Nakamura Y, Tamari M.: Genetic polymorphism regulating ORM1-like 3 (*Saccharomyces cerevisiae*) expression is associated with childhood atopic asthma in a Japanese population. *J Allergy Clin Immunol* 121:769-770, 2008 .
 21. Imada Y, Fujimoto M, Hirata K, Hirota T, Suzuki Y, Saito H, Matsumoto K, Akazawa A, Katsunuma T, Yoshihara S, Ebisawa M, Shibasaki M, Arinami T, Tamari M, Noguchi E.. Large scale genotyping study for asthma in

the Japanese population. BMC Res Notes 31: 2 : 54, 2009 .

22. Harada M, Hirota T, Jodo AI, Doi S, Kameda M, Fujita K, Miyatake A, Enomoto T, Noguchi E, Yoshihara S, Ebisawa M, Saito H, Matsumoto K, Nakamura Y, Ziegler SF, Tamari M: Functional analysis of the Thymic Stromal Lymphopoietin Variants in Human Bronchial Epithelial Cells. Am J Respir Cell Mol Biol 40 : 368-374, 2009.

和文

1. 徳山研一, 梅野英輔, 勝沼俊雄, 亀田誠, 坂本龍雄, 濱崎雄平, 増田敬, 吉原重美:小児気管支喘息に対する吸入抗コリン薬の使用状況 -アレルギー専門小児科医を対象とした質問表による調査-. 日本小児アレルギー学会誌 18: 270-278, 2004.
2. 吉原重美, 菅野訓子, 山田裕美, 小野三佳, 福田典正, 沼田道生, 阿部利夫, 有阪治:小児気管支喘息におけるクロモグリク酸ナトリウム吸入によるアーリーインターベンション. 日本小児アレルギー学会誌 19: 53-59, 2005.
3. 西間三馨, 森川昭廣, 吉原重美他: 代替フロンHFA-134aを用いたプロピオン酸ベクロメタゾン定量噴霧式吸入剤キュバールTMの小児気管支喘息に対する一般臨床試験. アレルギー・免疫 12: 80-94, 2005.
4. 西間三馨, 古庄巻史, 古川 漸, 吉原重美: システイニルロイコトリエン受容体1拮抗薬; モンテルカストの小児気管支喘息に対する有効性の検討 -フマル酸ケトチフェンを対照とした二重盲検群間比較試験 (市販後臨床試験) -. 臨床医薬 21: 605-636, 2005.
5. 古庄巻史, 西間三馨, 古川 漸, 吉原重美他: システイニルロイコトリエン受容体1拮抗薬; モンテルカストナトリウム細粒剤の乳児気管支喘息 (1歳以上2歳未満) に対する第II相非盲検非対照試験. 臨床医薬 21: 1009-1018, 2005.
6. 足立満, 福田健, 森川昭廣, 西村周三, 加藤政彦, 木村輝明, 杉山公美弥, 蝶名林直彦, 望月博之, 安場広高, 吉原重美: 日本における喘息死と喘息の疾病負担. アレルギー・免疫 12: 56-65, 2005.
7. 菅野訓子, 吉原重美, 福田典正, 山田裕美, 阿部利夫, 有阪治: クロモグリク酸ナトリウム吸入液等張製剤切り替えによる小児喘息児の肺機能への影響. 日本小児呼吸器疾患学会 17:137-142, 2006.
8. 菅野訓子, 吉原重美, 山田裕美, 阿部利夫, 有阪治, 野田雅行: 小児気管支喘息の肺機能推移におけるクロモグリク酸ナトリウム吸入早期治療効果. アレルギーの臨床 26:54-58, 2006.
9. 西間三馨, 崎山幸雄, 森川みき, 角田和彦, 吉原重美他 16名: 小児アレルギー疾患におけるアレルギー感作の全国調査. 日本小児アレルギー学会誌 20:109-118, 2006.
10. 南部光彦, 古庄巻史, 森川昭廣, 西間三馨, 吉原重美他 29名: 小児気管支喘息治療・管理に関する小児科医へのアンケート調査 2005. 日本小児アレルギー学会雑誌 20:505-512, 2006.
11. 吉原重美: 乳幼児の気管支喘息管理実態に関するアンケート調査 (第二報) —保護者を対象として—. 医学と薬学 58:739-748, 2007.
12. 吉原重美, 山田裕美, 福田啓伸, 阿部利夫, 有阪治: ツロブテロールテープ剤の製剤特性の比較に関する検討. 診療と新薬 44: 377-384, 2007.
13. 福田典正, 吉原重美, 土屋喬義, 山田裕美, 小野三佳, 有阪治: 「小児気管支喘息・管理ガイドライン2005」と「患者さんとその家族のためのぜんそくハンドブック2004」に関するアンケート調査—学会員と一般医の比較から—. 小児アレルギー学会誌 21: 205-212, 2007.
14. 福田典正, 土屋喬義, 吉原重美, 有阪治: みんなのための喘息ガイドライン—開業医の立場から—. 日本小児難

治喘息アレルギー学会誌 5 : 14-20, 2007.

15. 吉原重美, 市橋光, 桃井真里子, 江口光興, 井原正博, 菅野訓子, 平尾準一, 有阪治 : 栃木県における小児気管支喘息治療の実態調査~2002年と2006年の比較~. 日本小児アレルギー学会誌 22: 795-802, 2008.
16. 吉原重美, 有阪治 : ツロブテロール貼付薬 (ホクナリン®テープ) の重症小児気管支喘息における吸入ステロイド薬への追加効果. Prog Med 28:809-812, 2008.
17. 菅野訓子, 吉原重美, 山田裕美, 小野三佳, 阿部利夫, 有阪治 : 小児気管支喘息患者を対象としたプロカテロール吸入液ユニットの使用感および利便性に関するアンケート調査. 呼吸 27:999-1004, 2008.
18. 福田啓伸, 吉原重美, 山田裕美, 阿部利夫, 有阪治 : 当院でのエピペン®治療の現状と今後の課題. 日本小児難治喘息アレルギー疾患学会誌 7, 15-20, 2009.

【症例報告】

欧文

1. Nitta A, Suzumura H, Tsuboi Y, Yoshihara S, Arisaka O: Cow' s milk allergy with severe atopic dermatitis: in a 605-G extremely low birth weight infant. J Pediatrics 148: 282, 2006.
2. Nitta A, Nishikura K, Hirao J, Suzumura H, Yoshihara S, Arisaka O: Congenital left brachiocephalic vein and superior vena cava aneurysms in an infant: update. J Pediatrics 148:708-709, 2006.
3. Yamada Y, Yoshihara S, Arisaka O: Successful treatment of pediatric hypereosinophilic syndrome with suplatast tosilate. Ann Allergy Asthma Immunol 99:380-381, 2007.
4. Nitta A, Nishikura K, Fukuda H, Yoshihara S, Hirao J, Arisaka O, Matsuda H.: Congenital left brachiocephalic vein and superior vena cava aneurysms in an infant: final update with autopsy findings. J Pediatr 152:445-446, 2008.

和文

1. 山田裕美, 小嶋恵美, 吉原重美, 平尾準一, 有阪治: 高度肥満に合併する睡眠時無呼吸に対する扁桃・アデノイド切除術前後の睡眠時呼吸モニタリング. 小児呼吸器疾患学会雑誌 15: 13-16, 2004.
2. 土屋喬義, 吉原重美, 奥山力, 山中みよこ, 宮地満佐子, 山口勝之, 土屋恭子, 土屋興之: プランルカストドライシロップの投与により吸入ステロイドを含む他剤が減量・離脱でき、十分なコントロールが得られた小児気管支喘息の1例. Prog Med 24: 866-867, 2004.
3. 西倉潔, 山田裕美, 根岸正穂, 平尾準一, 吉原重美, 平林秀樹, 有阪治: 急性呼吸不全をきたした喉頭乳頭腫の一乳児例. 小児科臨床 58: 2046-2050, 2005.
4. 山田裕美, 根岸正穂, 西倉潔, 菅野訓子, 吉原重美, 有阪治: 気管支分岐異常とpulmonary artery slingにアトピー型気管支喘息を合併した1歳女児例. Pediatric Allergy for Clinicians 2: 25-27, 2006.
5. 山田裕美, 清水亜妃, 土屋喬義, 吉原重美: マカデミアナッツによるアナフィラキシーを呈した一幼児例、日本アレルギー学会誌 56:1306, 2007.
6. 白岩妙子, 山田裕美, 小嶋恵美, 吉原重美, 有阪治 : アトピー咳嗽が疑われた一幼児例. 小児科臨床 60:111-114, 2007.
7. 福田啓伸, 吉原重美, 西田光宏, 片塩 仁, 和気晃司, 平尾準一, 有阪治 : シベレスタットナトリウム水和物が有効であった急性呼吸窮迫症候群を合併した麻疹肺炎の乳児例. 日本小児呼吸器疾患学会雑誌 20, 12-17, 2009.

8. 西田光宏, 山崎 弦, 吉原重美, 有阪治: 運動誘発試験で肺機能低下を認めたコリン性じんま疹の1例. 小児科臨床 62, 451-455, 2009.

【総 説】

欧文

1. Yoshihara S, Yamada Y, Abe T, Arisaka O: Long-acting β 2-adrenergic receptor agonist in pediatric asthma. Allergology international 53: 69-75, 2004.

和文

1. 吉原重美: 乳幼児・小児喘息における短時間、長時間作動型 β 2刺激薬の使用. アレルギー科 17: 335-341, 2004.
2. 吉原重美: アレルギー相談室Q&A『小児気管支喘息において β 2刺激薬のコントローラーの意義はありますか?』. アレルギーの臨床 24: 656, 2004.
3. 吉原重美, 有阪治: 気管支喘息と自律神経. 小児内科 36: 535-540, 2004.
4. 阿部利夫, 吉原重美: 鎮咳薬. 小児科診療 増刊号 67: 125-129, 2004.
5. 山田裕美, 吉原重美: 抗アレルギー薬. アレルギー治療薬の上手な使い方-気管支喘息 小児-, medicina 41:410-412, 2004.
6. 吉原重美: 私の学んだ小児気管支喘息の基礎~臨床~教育. 日本小児難治喘息・アレルギー疾患学会誌 3: 1-8, 2005.
7. 吉原重美: I 基礎、DSCGのC-fiber 活性抑制作用. アレルギー・免疫 12: 1138-1144, 2005.
8. 吉原重美: 小児アレルギー疾患はなぜ増加しているのか. Pediatric for Allergy Clinicians 1: 17-19, 2005.
9. 吉原重美: 気管支喘息における神経ペプチド. アレルギーの臨床 25: 1014-1019, 2005.
10. 吉原重美: 神経ペプチドと新しい気管支喘息治療薬. アレルギーと神経ペプチド 1: 31-34, 2005.
11. 吉原重美: 小児喘息治療の進歩とは(巻頭言) アレルギーの臨床 25: 13, 2005.
12. 吉原重美, 山田裕美, 有阪 治: 下気道ウイルス感染と喘息発症. アレルギー疾患研究の最前線. 齊藤博久編, 別冊・医学のあゆみ, pp29-34, 2005.
13. 吉原重美, 山田裕美, 阿部利夫, 有阪治: 小児気管支喘息の早期診断. 小児科臨床 58: 1987-1991, 2005.
14. 吉原重美, 山田裕美, 有阪治: RSウイルスによる喘鳴と乳児喘息. カレントセラピー 23: 363-368, 2005.
15. 吉原重美, 阿部利夫: その他の長期管理薬(DSCG, RTC, LABA)の今後の展開. 特集: 小児気管支喘息治療の新展開 MEDICO 36, 100-103, 2005.
16. 山田裕美, 吉原重美, 有阪治: 気管支喘息と好中球. International Review of Asthma 7: 98-104, 2005.
17. 山田裕美, 吉原重美, 有阪治: 気道ウイルス感染と喘息発症. Allergy from the nose to the lung 3: 12-16, 2005.
18. 山田裕美, 吉原重美, 有阪治: 小児の喀痰検査 技術講座-218-. アレルギーの臨床 25: 338-340, 2005.
19. 山田裕美, 吉原重美, 有阪 治: Th1/Th2 からみたアトピー性皮膚炎におけるアレルギー性炎症. アレルギー科 19: 478-481, 2005.
20. 山田裕美, 吉原重美, 有阪 治: 小児の睡眠時無呼吸症候群. 呼吸 24: 746-750, 2005.
21. 山田裕美, 吉原重美, 有阪 治: 乳児喘鳴性疾患と乳児喘息. 小児科診療 68: 1469-1474, 2005.

22. 山田裕美, 吉原重美: 乳幼児の気管支喘息における気道炎症-痰中Creola Bodyからのアプローチ-. アレルギーの臨床 25: 17-21, 2005.
23. 阿部利夫, 吉原重美: ダニ防止布団は有効ですか? Q&Aでわかるアレルギー疾患, 丹水社 1: 28-30, 2005.
24. 阿部利夫, 吉原重美: II小児について 5) 吸入ステロイド薬との併用により期待される効果と限界 長時間作動型 β 2刺激薬・テオフィリン薬. アレルギー・免疫 12: 72-78, 2005.
25. 吉原重美: 小児気管支喘息とタバコ煙. 日本小児アレルギー学会誌 20:205-209, 2006.
26. 吉原重美: 子供の喘息と旅行. 日本旅行医学会誌 4:21-24, 2006.
27. 吉原重美: 乳児のアレルギーと呼気性喘鳴 小児科診療 69:1453-1460, 2006.
28. 吉原重美: 乳児喘息に対する薬物療法-急性発作時のポイント-. 小児科 47:1079-1084, 2006.
29. 吉原重美: 乳幼児の気管支喘息管理実態に関するアンケート調査-保護者を対象として- 医学と薬学 56:377-384, 2006.
30. 吉原重美: 安全性 吸入ステロイド薬の成長への影響. 乳幼児の喘息治療に対する新たな展望-ブデソニド吸入懸濁液-. Pharma Medica 24(Suppl):29-34, 2006.
31. 吉原重美: ウイルス感染に伴う喘鳴. 小児の治療指針、小児科診療 増刊号 69:271-273, 2006.
32. 吉原重美: 抗ロイコトリエン拮抗薬により気道リモデリングは予防できるのか? 小児内科 38:959-961, 2006.
33. 吉原重美: カンナビノイド受容体を介した気道神経原性炎症の制御. アレルギーと神経ペプチド 2:4-10, 2006.
34. 吉原重美: 乳幼児気管支喘息治療における目指すべき治療目標. クリニカルプラクティス 25:884-889, 2006.
35. 吉原重美, 有阪治: テオフィリンの薬効・薬理と血中濃度、効果と有害作用のオーバービュー. 小児科臨床 59:177-185, 2006.
36. 吉原重美, 山田裕美, 阿部利夫, 有阪治: 乳児期の喘鳴をどうとらえ、診断するか? Pediatric Allergy for Clinicians 2:13-16, 2006.
37. 阿部利夫, 吉原重美: 化学伝達物質遊離抑制薬およびヒスタミンH1拮抗薬, Th2サイトカイン阻害薬のエビデンス. 小児内科 38: 1931-1934, 2006.
38. 山田裕美, 吉原重美, 有阪治: 喀痰検査による小児喘息管理の向上. 喘息 19: 25-28, 2006.
39. 山田裕美, 吉原重美, 有阪治: RSウイルス感染と喘息発症-Th1/Th2 バランスの観点から-. アレルギー・免疫 13:85-90, 2006.
40. 山田裕美, 吉原重美: 乳児(2歳未満)喘息急性発作の治療-JPGL2005を踏まえてどのように対応すべきか?- 喘息 19:37-40, 2006.
41. 福田啓伸, 吉原重美: 小児の花粉症とぜんそくとの関連性. チャイルドヘルス 9:26-28, 2006.
42. 吉原重美: 総説-乳幼児の気管支喘息治療の現状と今後の展望. 日本小児アレルギー学会誌 21:635-648, 2007.
43. 吉原重美: Th2サイトカイン阻害薬. 日本小児アレルギー学会誌 21:14-20, 2007.
44. 吉原重美: 気管支拡張薬(β 2刺激薬). 特集子どもの薬-私なら今これをこう使う. 小児科臨床 60: 2379-2386, 2007.
45. 吉原重美: 外来における喘息診療「喘息診療」の落とし穴. 小児科診療 70:1267-1271, 2007.
46. 吉原重美: 下気道の神経原性炎症におけるバニロイド受容体の役割. アレルギーと神経ペプチド 3:18, 2007.
47. 阿部利夫, 吉原重美: 気管支喘息と神経ペプチド. アレルギー・免疫 14: 878-883, 2007.
48. 福田典正, 吉原重美: 抗炎症薬による小児喘息のEarly Intervention. 臨床免疫・アレルギー科 47: 60-66, 2007.
49. 山田裕美, 吉原重美: 乳幼児喘息に対するearly interventionのあり方. 日本小児呼吸器疾患学会雑誌 18,

- 45-50 2007.
50. 山田裕美, 吉原重美: デイバート〜乳児喘息: 急性増悪時のステロイド薬(静注、内服)の使い方1) その有効性と危険性の狭間で. アレルギー・免疫 14, 34-38, 2007.
 51. 山田裕美, 吉原重美, 松本健治: RSウイルス感染と気道炎症-気道上皮細胞を中心に- 日本小児アレルギー学会誌 21, 79-85, 2007.
 52. 小野三佳, 吉原重美: 乳児喘息治療への対応. 治療 89:1811-1817, 2007.
 53. 山田裕美, 吉原重美: 繰り返す気道感染. VIII. 胸部の徴候, 小児科診療 70: 421-422, 2007
 54. 吉原重美: 小児気管支喘息. 呼吸器疾患診療マニュアル, 日本医師会雑誌 137:214-217, 2008.
 55. 吉原重美: 小児気管支喘息の薬物によるEarly intervention. 日本小児難治喘息・アレルギー疾患学会誌 6:205-208, 2008.
 56. 吉原重美: 気管支喘息. 小児疾患診療のための病態生理, 小児内科 増刊号 第4版 40:1374-1381, 2008.
 57. 吉原重美: 小児喘息から成人喘息への移行について. 呼吸と循環 56:919-924, 2008.
 58. 吉原重美: 難治化の防止に向けて1)小児喘息. アレルギーの臨床 27:943-950, 2008.
 59. 吉原重美: 小児気管支喘息の気道炎症の評価-喀痰検査-. 喘息 21:4-8, 2008.
 60. 吉原重美: One airway, one diseaseと神経原性炎症. アレルギーと神経ペプチド 4: 11, 2008.
 61. 吉原重美: ニューロステロイドの気道神経原性炎症抑制効果と細胞内シグナル伝達機構. アレルギーと神経ペプチド 4:25-29, 2008.
 62. 吉原重美: 「小児のアレルギーマーチについて教えてください. また以前と比べてどのような変化がありますか?」. Q&Aでわかるアレルギー疾患 4: 592-594, 2008.
 63. 吉原重美, 福田啓伸: 小児のアナフィラキシー疾患におけるエピペン®の必要性. Pediatric Allergy for Clinicians 4:16-19, 2008.
 64. 山田裕美, 吉原重美: RSウイルス感染と喘息の発症. アレルギーの臨床 28:22-27, 2008.
 65. 菅野訓子, 吉原重美: 専門病院における教育のノウハウ. Pediatric Allergy for clinicians 4:16-17, 2008.
 66. 福田啓伸, 吉原重美: 学校行事には発作がなければ参加しよう!アレルギー診療Q & A. Pediatric Allergy for Clinicians 4:60-61, 2008.
 67. 吉原重美: 重症喘息 1)小児重症喘息の管理の現状. 特集;喘息コントロール・既存治療の現状と今後の展望, Prog Med 29, 13-17, 2009.
 68. 吉原重美: 乳幼児期の喘鳴症候群-Reactive airway disease (RAD)の臨床像, 小児科 50: 93-102, 2009.
 69. 吉原重美: 副腎皮質ステロイド剤(外用剤), 新薬展望 2009;医薬ジャーナル社 45: 193-205, 2009.
 70. 吉原重美: 中葉症候群. 小児の症候群, 小児科診療 増刊号 72: 249, 2009.
 71. 吉原重美: 感染症対策-意義と治療の実際-. 気管支喘息のより良い実地治療管理を求めて, Medical Practice 26: 475-481, 2009.
 72. 吉原重美: 気管支喘息のアレルギー炎症における温度感受性TRPチャンネルの役割, アレルギーと神経ペプチド 5: 17, 2009.
 73. 吉原重美: 小児重症喘息の管理の現状 Prog Med 29: 13-17, 2009.
 74. 吉原重美: 貼付 β 2刺激薬の位置付け. 特集「気管支拡張薬の功罪〜小児〜」アレルギー・免疫 16: 39-44, 2009.
 75. 吉原重美: 特集ロイコトリエン受容体拮抗薬 アップデート. 序, ロイコトリエン受容体拮抗薬を用いた治療戦

略. アレルギー・免疫 16: 9-11, 2009.

76. 吉原重美: 誘発喀痰. 小児科診療 72: 1271-1275, 2009.

77. 吉原重美: 乳幼児の気管支喘息管理に関するアンケート調査—JPGL2008 の治療目標は達成されているか—. Pediatric Allergy for Clinicians 5: 62-65, 2009.

【その他】

欧文

1. Yoshihara S, Ono M, Yamada Y, Abe T, Arisaka O: Early intervention by Th-2 type cytokine inhibitor in pediatric asthma. The 6th Asia Pacific Congress of Alergology and Clinical Immunology, MEDIMOND EX04R9018, 117-122, 2005.

2. Yamada Y, Yoshihara S, Arisaka O: Epithelial damage in the airways during acute exacerbations of childhood asthma. The 6th Asia Pacific Congress of Alergology and Clinical Immunology, MEDIMOND EX04C0099, 223-225, 2005.

和文

1. 吉原重美, 山田裕美: アレルギー疾患に係わる胎内・胎外因子の同定に関する研究-ヒト気道上皮細胞におけるRSV感染による遺伝子発現の網羅的解析. 平成 15 年度厚生労働省科学研究 (免疫・アレルギー疾患予防・治療研究事業) 研究報告書, pp 36-39, 2004.

2. 海老沢元宏, 吉原重美他 25 名: 食物等によるアナフィラキシー反応の原因物質 (アレルゲン) の確定、予防・予知法の確立に関する研究. 平成 15 年度厚生労働省科学研究 (免疫・アレルギー疾患予防・治療研究事業) 研究報告書, pp23-25, 2004.

3. 吉原重美: 小児軽症喘息におけるearly intervention. Allergia Trends, メディカルレビュー社, 14-16, 2004.

4. 吉原重美: 小児気管支喘息における最新の治療について. 岐阜県小児科医会報 第 34 号, pp3-8, 2004.

5. 吉原重美: 最近の乳児喘息治療の考え方. 北九州小児科医会報, 第 407 号, pp 1-4, 2004.

6. 吉原重美, 山田裕美: アレルギー疾患に係わる胎内・胎外因子の同定に関する研究-ヒト気道上皮細胞におけるRSV感染による遺伝子発現解析・気道リモデリング関連分子の検討-. 平成 16 年度厚生労働省科学研究 (免疫・アレルギー疾患予防・治療研究事業) 研究報告書, pp 150-152, 2005.

7. 海老沢元宏, 吉原重美他 25 名: 食物等によるアナフィラキシー反応の原因物質 (アレルゲン) の確定、予防・予知法の確立に関する研究. 平成 16 年度厚生労働省科学研究 (免疫・アレルギー疾患予防・治療研究事業) 研究報告書, pp4-6, 2005.

8. 吉原重美: 小児気管支喘息-最新の吸入治療戦略-. 広島県小児科医会報、第 40 号, pp 15-20, 2005.

9. 吉原重美: 小児難治喘息およびアレルギー疾患児のより良い医療をめざして. 第 21 回日本小児難治喘息・アレルギー疾患学会記念講演集, pp 3-10, 2005.

10. 山田裕美, 吉原重美, 有阪 治: 乳児喘息の病態-痰からのアプローチを中心に-. 第 21 回日本小児難治喘息・アレルギー疾患学会記念講演集, pp45-47, 2005.

11. 西間三馨, 森川昭廣, 吉原重美他 33 名: 小児気管支喘息治療・管理ガイドライン 2005, 協和企画, 2005.

12. 吉原重美: 特発性肺モジデローシス. 大関武彦、古川 漸、横田俊一郎編 今日の小児治療指針第 14 版, 医学書院, pp 309, 2006.

13. 吉原重美: 乳児喘息. 大関武彦、古川 漸、横田俊一郎編, 今日の小児治療指針第 14 版, 医学書院, pp235-237, 2006.
14. 吉原重美, 山田裕美, 阿部利夫, 有阪 治: I 乳幼児期 病態 ; 喘息の病態と治療からみた世代的 (年齢的) 特徴. 第 25 回六甲カンファレンス, ライフサイエンス社, pp3-10, 2006.
15. 吉原重美, 山田裕美: アレルギー疾患に係わる胎内・胎外因子の同定に関する研究-ヒト気道上皮細胞におけるRSV 感染による遺伝子発現解析・Th1 およびTh2 サイトカイン存在下
における検討-. 平成 17 年度厚生労働省科学研究(免疫・アレルギー疾患予防・治療研究事業)研究報告書, pp32-35, 2006.
16. 吉原重美, 山田裕美: アレルギー疾患に係わる胎内・胎外因子の同定に関する研究-ヒト気道上一皮細胞における RSV感染による遺伝子発現解析・Th1 およびTh2 サイトカイン存在下における検討-. 平成 15 年度～平成 17 年度厚生労働省科学研究 (免疫・アレルギー疾患予防・治療研究事業) 総合研究報告書, pp48-57, 2006.
17. 海老沢元宏, 吉原重美他 19 名: 食物等によるアナフィラキシー反応の原因物質 (アレルゲン) の確定、予防・予知法の確立に関する研究. 平成 17 年度厚生労働省科学研究 (免疫・アレルギー疾患予防・治療研究事業) 研究報告書, pp10-12, 2006.
18. 海老沢元宏, 吉原重美他 27 名: 食物等によるアナフィラキシー反応の原因物質 (アレルゲン) の確定、予防・予知法の確立に関する研究. 平成 15 年度～平成 17 年度厚生労働省科学研究 (免疫・アレルギー疾患予防・治療研究事業) 研究報告書, pp6-10, 2006.
19. 吉原重美他: 学校におけるシックハウス対策に関する手引き, 栃木県学校環境衛生対策検討委員会報告書, pp1-11, 2006
20. 吉原重美: 序 アレルギー疾患と自律神経. アレルギー・免疫, 14: 851-852, 2007.
21. 吉原重美: 小児アレルギー疾患治療の最新トピックス. 長野県小児科医会報 43: pp 11-19, 2006.
22. 吉原重美: ニューロペプチド研究会のあゆみ-第 1 4 回研究会報告-アレルギーと神経ペプチド 3: pp 52-55, 2007
23. 阿部利夫, 吉原重美: 小児の細気管支炎の診断・治療. 日本医事新報 No. 4267:109-110, 2006.
24. 吉原重美, 阿部利夫: 獨協医科大学病院小児科におけるアレルギー診療連携. アレルギー診療施設事例集, 厚生労働省科学研究・ガイドライン普及のための対策とそれに伴うQOLの向上に関する研究(主任研究者; 須甲松信). pp 1-2, 2007.
25. 吉原重美: 食物アレルギーの診断と治療. 食に関する個別指導実践事例集・栃木県食物アレルギー研究報告, 栃木県教育委員会編集, pp76-80, 2007.
26. 吉原重美: 食物アレルギーと小児保健. 小児保健栃木 第 24 号, pp5-9, 2007.
27. 吉原重美: 小児気管支喘息の早期介入. 長野県小児科医会会報 第 46 号, pp12-16, 2007.
28. 吉原重美: 乳幼児喘息治療を考える! 北足立郡医師会会報 236 号, pp27-28, 2008.
29. 吉原重美: 小児気管支喘息とその関連する咳嗽疾患の治療. 特別講演記録集, 埼玉小児科耳鼻咽喉科懇話会編, pp 25-28, 2007.
30. 吉原重美: 患者教育・生活指導 喘息サマーキャンプの取り組みー小児科での運営による体験的効果ー, Pediatric Allergy for Clinicians pp37-40, 2007.
31. 吉原重美, 山田裕美: 乳児喘息に対する早期介入. Medical Tribune 40, pp24-25, 2007.
32. 吉原重美: 小児気管支喘息に対して“DS CG吸入による早期介入”は有効である. Allergia Trends, メディカルレビュー社, 9, pp18-20, 2007.

33. 吉原重美: 乳幼児喘息のより良いコントロール. 日本医事新報 No. 4404:89, 2008.
34. 吉原重美: 気管支喘息に対するカンナビノイド作動薬の治療応用に関する基礎研究.
平成 18 年度～19 年度科学研究費補助金(基盤研究(C)) 研究成果報告書, pp1-10, 2008.
35. 海老沢元宏, 吉原重美他 16 名: アレルギーマーチの進展因子と予防に関する研究.
平成 19 年度厚生労働省科学研究(免疫・アレルギー疾患予防・治療研究事業) 研究報告書, pp5-11, 2008.
36. 吉原重美: ウイルス感染と乳幼児喘息. 岡山県小児科医会会報, 第 29 号: pp 11-21, 2008.
37. 吉原重美: 小児喘息とその関連する遷延性咳嗽の治療. 横須賀市医師会報 283 号:pp 22-24, 2008.
38. 吉原重美: RSウイルス気道感染と反復性喘鳴. 第 55 回日本ウイルス学会学術集会記録集, pp 1-7, 2008
39. 西牟田敏之, 西間三馨, 吉原重美他 33 名: 小児気管支喘息治療・管理ガイドライン 2008, 協和企画, 2008.
40. 福田啓伸, 阿部利夫, 吉原重美: 文献紹介 3 ; 胃食道逆流モデルにおける気管支収縮と気道浮腫へのカンナビノイドB2(CB2)受容体活性化による抑制効果, アレルギーと神経ペプチド, 5, 48-49, 2009.
41. 福田啓伸, 山田裕美, 阿部利夫, 吉原重美: 施設紹介—獨協医科大学病院小児科, 日本小児難治喘息アレルギー疾患学会誌 7, 62-65, 2009.
42. 吉原重美: 食物アレルギー/アナフィラキシー, 親子でつくる四季の献立, 栃木県保健福祉部健康増進課 pp35-42, 2009.

講座名	職名	氏名	
小児科学	講師	志村 直人	大学院の研究指導担当資格 有
Ⅱ 学会等および社会における主な活動			
1984年5月～現在	日本小児科学会員		
1984年10月～現在	日本小児内分泌学会員		
2005年4月～現在	日本内分泌学会員		
2008年4月～現在	栃木つばみの会サマーキャンプ医療責任者		
Ⅲ 研究活動			
【学位論文】			
【著 書】			
和文			
1. <u>志村直人</u> ：甲状腺機能低下症. 金子堅一郎（編） イラストによるお母さんへの病気の説明と小児の診療 第3版, 解説編 p312 - p314 , イラスト編p236 - p237, 南山堂, 東京 2004.			
2. <u>志村直人</u> ：思春期早発症. 金子堅一郎（編） イラストによるお母さんへの病気の説明と小児の診療 第3版, 解説編p322 - p324, イラスト編p244 - p247, 南山堂, 東京 2004.			
3. <u>志村直人</u> ：包茎・小陰茎. 金子堅一郎（編） イラストによるお母さんへの病気の説明と小児の診療 第3版, 解説編p388 - p390, イラスト編p296 - p297, 南山堂, 東京 2004.			
4. 有阪治, <u>志村直人</u> , 小林弘美, 高橋徳江：小児糖尿病. 富野康日己編集, 症状・疾患別 食事指導の看護へのいかしかた, 第2版, 医師薬出版株式会社, 212-220, 2005.			
5. <u>志村直人</u> ：ステッドマン医学大辞典, 高久史麿監修, メジカルビュー社, (35, 39, 120, 210, 346, 434, 438, 483, 534, 545, 568, 576, 800, 842, 893, 921, 1015, 1165, 1257, 1340, 1353, 1429, 1478, 1515, 1570, 1582, 1681, 1683, 1684, 1740, 1801, 1804, 1809, 1810, 1818, 1819-1820, 1825, 1904, 1992, 2021, 2044), 2008.			
6. <u>志村直人</u> ：肥満とやせ. 講義録 小児科学, 佐地勉, 有阪治, 大澤真木子, 近藤直美, 竹村司, 編, メジカルビュー社, 86-88. 2008.			
7. <u>志村直人</u> ：食欲不振. 講義録 小児科学, 佐地勉, 有阪治, 大澤真木子, 近藤直美, 竹村司, 編, メジカルビュー社, 123-125. 2008.			
8. <u>志村直人</u> ：ホルモンの種類、作用、作用機序. 講義録 小児科学, 佐地勉, 有阪治, 大澤真木子, 近藤直美, 竹村司, 編, メジカルビュー社, 272-279. 2008.			
9. <u>志村直人</u> ：思春期早発症、思春期遅発症. 講義録 小児科学, 佐地勉, 有阪治, 大澤真木子, 近藤直美, 竹村司, 編, メジカルビュー社, 288-291. 2008.			
10. <u>志村直人</u> 、市川 剛、有阪 治：先天性副腎過形成症. ナースのための小児病態生理事典, 山城雄一郎, 編 ヘルス出版, 305-11. 2008.			
11. 市川 剛、 <u>志村直人</u> 、有阪 治：成長障害. ナースのための小児病態生理事典, 山城雄一郎, 編 ヘルス出版, 8-14. 2008.			
12. <u>志村直人</u> ：思春期早発症・遅発症. 小児科研修ノート、永井良三監修, 診断と治療社, 308-09. 2009.			
【原 著】			

欧文

1. Shimura N, Kim H, Sugimoto H, Aoyagi Y, Baba H, Kim S :Syndrome of inappropriate secretion of antidiuretic hormone as a complication of human herpesvirus-6 infection. *Pediatr Int* 46:497-498, 2004.
2. Arisaka O, Kojima M, Yamazaki Y, Kanazawa S, Koyama S, Shimura N, Okada T :Relationship between the presence of small, dense low-density lipoprotein and plasma lipid phenotypes in Japanese children. *J Atheroscler Thromb* 11:220-3, 2004
3. Shimura N, Koyama S, Arisaka O, Imataka M, Sato K, Matsuura M: Assessment of Measurement of Children's Bone Age Ultrasonically with Sunlight BoneAge. *Clin Pediatr Endocrinology* 14(suppl 24), 17-20, 2005.
4. Kano K, Sunagawa S, Shimura N, Arisaka O :Duration of isolation of children with influenza A treated with oseltamivir. *Eur J Pediatr* 166:185-186, 2007.
5. Kurokawa K, Yorifuji T, Kawai M, Momoi T, Nagasaka H, Takayanagi M, Kobayashi K, Yoshino M, Kosho T, Adachi M, Otsuka H, Yamamoto S, Murata T, Suenaga A, Ishii T, Terada K, Shimura N, Kiwaki K, Shintaku H, Yamakawa M, Nakabayashi H, Wakutani Y, Nakahata T: Molecular and clinical analyses of Japanese patients with carbamoylphosphate synthetase 1 (CPS1) deficiency. *J Hum Genet* 52:349-354, 2007.
6. Arisaka O, Ichikawa G, Yamazaki Y, Shimura N:Cardiovascular risk markers in adolescent girls with anorexia nervosa. *J Pediatr* 151 :e16, 2007.

和文

1. 志村直人, 杉本青永, 金孝一, 馬場春奈, 青柳陽, 金成彌, 芳賀千賀子 :細気管支炎と診断された新生児・乳児の百日咳. *小児科臨床* 57:2105-2108, 2005.
2. 加納健一, 砂川佐知子, 志村直人, 有阪治: 2004/2005年の野木病院小児科におけるインフルエンザの臨床的検討, *小児科臨床* 59:137-141, 2006.
3. 加納健一, 砂川佐知子, 志村直人, 有阪治: 2005/2006年の野木病院小児科におけるインフルエンザの臨床的検討, *小児科臨床* 59:2531-2355, 2006.
4. 志村直人, 市川剛, 小嶋恵美, 山崎弦, 有阪 治 :高度な代謝異常を合併し, 治療に難渋した2型糖尿病の女子例. *The Lipids* 19:203-207, 2008.

【症例報告】

欧文

1. Ohtsuka Y, Shimizu T, Nishizawa K, Ohtaki R, Someya T, Noguchi A, Shimura N, Kim H, Sugimoto H, Fujita H, Morio T, Yamashiro Y: Successful engraftment and decrease of cytomegalovirus load after cord blood stem cell transplantation in patient with DiGeorge syndrome. *Eur J Pediatr* 163: 747-748, 2004
2. Negishi M, Kano K, Shimura N, Arisaka O. :Hypocalcemia due to tubular dysfunction in a patient with holoprosencephaly. *Clin Exp Nephrol* 9:244-6, 2005.
3. Kurosawa H, Matsunaga T, Shimura N, Nakajima D, Hagiwara S, Fukushima K, Sugita K, Phyo K, Arisaka O :Successfully treated acute lymphoblastic leukemia associated with craniopharyngioma. *J Pediatr Hematol Oncol* 29:416-419, 2007.
4. 志村直人, 杉本青永, 金孝一, 馬場春奈, 芳賀千賀子, 角田晋, 柿田豊 :target sign 様の超音波画像を認め異

所性腺組織を持つ胃重複腸管の1女児例. 小児科臨床 58:29-32, 2005.

【総 説】

和文

1. 有阪 治, 志村直人: 新生児甲状腺機能亢進症・低下症. 臨床看護 30:1003-1006, 2004.
2. 有阪治, 志村直人, 新田晃久: 【そこが知りたい性の問題】 環境ホルモンと胎児性発達の関連は? 小児内科 37:1022-1025, 2005.
3. 志村直人: 成長・成熟の異常 性成熟の異常 (二次性徴の異常) 小児科診療 70 Suppl:255-258, 2007.
4. 志村直人: ヒトヘルペスウイルス-6 による抗利尿ホルモン異常分泌症候群. 小児内科 40:584-585, 2008.

【そ の 他】

教育・研究業績書

講座名 小児科学	職名 講師	氏名 福島 啓太郎	大学院の研究指導担当資格 有
-------------	----------	--------------	----------------

Ⅱ 学会等および社会における主な活動

1988年6月～現在	日本小児科学会、認定専門医
1989年～現在	日本小児感染症学会員
1991年5月～現在	日本血液学会員、認定専門医
1992年6月～現在	日本アレルギー学会員、認定専門医・指導医
1993年7月～現在	日本炎症・再生医学会員
1993年～現在	日本造血細胞移植学会員
1994年～現在	日本臨床免疫学会員
1994年～現在	日本小児血液学会員
1995年～現在	日本輸血細胞治療学会員
2000年4月～現在	日本感染症学会員、認定専門医
2000年10月～現在	日本小児リウマチ学会員
2001年10月～現在	日本血栓止血学会員
2005年7月～現在	日本小児がん学会員
2008年4月～現在	栃木県母性衛生学会 常任理事

Ⅲ 研究活動

【学位論文】

【著 書】

和文

1. 福島啓太郎：先天性赤血球異形成貧血. 加藤忠明監修, 新しい小児慢性特定疾患治療研究事業に基づく小児慢性疾患診療マニュアル pp447-448, 診断と治療社, 東京, 2006.

【原 著】

欧文

1. Yasui K, Kobayashi N, Yamazaki T, Koike K, Fukushima K, Taniuchi S, Kobayashi Y: Neutrophilic inflammation in childhood bronchial asthma. Thorax 60: 704-705, 2005.

和文

1. 仲島大輔, 福島啓太郎, 山内秀雄: 小児急性リンパ性白血病治療における中枢神経合併症. 脳と発達 38: 195-200, 2006.
2. 福島啓太郎, 岡田まゆみ, 安部マサ子, 石井栄三郎: 新生児・乳幼児に対する院内分割による輸血剤の供給. 日児誌 111: 672-676, 2007.
3. 福島啓太郎, 藤澤正英, 仲島大輔, 松永貴之, 萩澤進, 黒澤秀光, 杉田憲一, 有阪治: 小児白血病化学療法時の深在性真菌症に対するvoriconazoleによる治療-投与量と血中濃度の検討. 臨床血液 48: 402-406, 2007.

【症例報告】

欧文

1. Kurosawa H, Matsunaga T, Shimura N, Nakajima D, Hagiwara S, Fukushima K, Sugita K, Phyo K, Arisaka O: Successfully treated acute lymphoblastic leukemia associated with craniopharyngioma. J Pediatr Hematol Oncol 29: 416-419, 2007.
2. Kurosawa H, Suzumura H, Okuya M, Fukushima K, Sugita K, Fujiwara T, Morishita E, Yoshioka A, Takamiya O, Arisaka O: Haemostatic management of surgery for imperforate anus in a patient with 13q deletion syndrome with combined deficiency of factors VII and X. Haemophilia 15:398-400, 2009.
3. Matsunaga T, Kurosawa H, Okuya M, Nakajima D, Hagiwara S, Sato Y, Fukushima K, Sugita K, Arisaka O: Chronic active Epstein-Barr virus infection with mosquito allergy successfully treated with reduced-intensity unrelated allogeneic bone marrow transplantation in a boy. Pediatr Transplant 13: 231-234, 2009.

和文

1. 福島啓太郎, 石井栄三郎, 倉田研児, 三木純, 藪原明彦, 川合博: 視力障害を呈した広東住血線虫による好酸球性髄膜炎. 日児誌 109: 839-844, 2005.
2. 松永貴之, 山本詩子, 宮本健志, 仲島大輔, 坪井龍生, 萩澤進, 福島啓太郎, 黒澤秀光, 杉田憲一, 金兼弘和, 江口光興: 緑膿菌敗血症で発症した好中球減少症を伴うX連鎖無γグロブリン血症の1例. 日小血会誌 20: 101-104, 2006.
3. 佐藤雄也, 市川剛, 藤澤正英, 今高城治, 福島啓太郎, 平尾準一, 杉田憲一, 有阪治: 健常年長児に発症したListeria monocytogenes髄膜炎. 小児科臨床 62: 251-255, 2009.

【総説】

和文

1. 福島啓太郎: 救急疾患の診療の実際-小児疾患. 獨協医学会誌 34: 329-336, 2007.

【その他】

翻訳

1. 福島啓太郎 (共著): ステッドマン医学大辞典改訂第6版 高久史麿総監修, メジカルビュー社, 東京, 2008.

教育・研究業績書

講座名	職名	氏名	
小児科学	講師	大和田 葉子	大学院の研究指導担当資格 有
Ⅱ 学会等および社会における主な活動			
2001年～現在	日本二分脊椎症協会栃木支部(コスモスの会) 賛助会員		
2002年12月～現在	関東小児腎臓研究会 運営委員		
2005年8月～現在	日本二分脊椎症協会4支部合同キャンプ 講演		
2005年11月～現在	平成17年度厚生労働省科学研究費補助金「小児疾患臨床研究事」「小児難治性腎疾患に対する薬物療法ガイドライン作成のための多施設共同研究と臨床試験体制整備」研究協力者		
2005年12月～現在	身体障害者福祉法指定医		
2007年5月1～現在	平成19年度、20年度、21年度厚生労働科学研究費補助金「医療技術実用化総合研究事業」 「小児ネフローゼ症候群に対する初期治療確立を目指した多施設共同臨床研究と拡大臨床試験体制整備」研究協力者		
2008年5月～現在	栃木県立のぞわ特別支援学校 指導医		
2008年6月～現在	第5回子ども健康講座 講演		
2009年6月～現在	小児IgA腎症治療研究会 幹事		
Ⅲ 研究活動			
【学位論文】			
【著 書】			
【原 著】			
【症例報告】			
和文			
1. 大和田葉子、新田晃久、根岸正実、鈴木宏 脳性麻痺児の慢性透析を経験して. 日本小児腎不全学会誌 25:196-198, 2005.			
【総 説】			
【そ の 他】			

教育・研究業績書

講座名 小児科学	職名 講師	氏名 西田 光宏	大学院の研究指導担当資格 有
Ⅱ 学会等および社会における主な活動			
1980年4月 1995年7月	日本小児科学会会員 日本アレルギー学会会員		
Ⅲ 研究活動			
<p>【学位論文】</p> <p>【著 書】</p> <p>【原 著】</p> <p>【症例報告】 和文</p> <p>1. <u>西田光宏</u>, 萩澤進, 平尾準一, 杉田憲一, 有坂治 : 労作性熱中症に伴って肝障害を認めた3例. 小児科臨床 61 : 1159-1162, 2008.</p> <p>2 : <u>西田光宏</u>, 山崎弦, 吉原重美, 有坂治 : 運動誘発試験で肺機能低下を認めたコリン性蕁麻疹の1例 小児科臨床 62 : 451-155, 2009.</p> <p>【総 説】</p> <p>【その他】</p>			

教育・研究業績書

講座名 小児科学	職名 講師	氏名 新田 晃久	大学院の研究指導担当資格 有
-------------	----------	-------------	----------------

Ⅱ 学会等および社会における主な活動

1994年5月～現在	日本小児科学会会員
1996年4月～現在	日本周産期新生児医学会会員
1996年4月～現在	日本未熟児新生児学会会員

Ⅲ 研究活動

【学位論文】

【著 書】

【原 著】

欧文

1. Yamanouchi H, Kawaguchi N, Watabe Y, Imataka G, Nitta A, Suzumura H, Arisaka O: Midazolam in the treatment of neonatal seizures. Ann Neurol 56: S102, 2004.
2. Yamanouchi H, Imataka G, Nakagawa E, Nitta A, Suzuki N, Hirao J, Suzumura H, Watanabe H, Arisaka O, Eguchi M: An analysis of epilepsy with chromosomal abnormalities. Brain Dev 27: 370-377, 2005.
3. Nitta A, Suzumura H, Arisaka O: Double-lumen peripherally inserted central catheter: a new useful device for neonates. Arch Dis Child Fetal Neonatal Ed <http://fn.bmjournals.com/cgi/eletters/89/6/F504#654>, 2005.
4. Imataka G, Nitta A, Suzumura H, Watanabe H, Yamanouchi H, Arisaka O: Survival of trisomy 18 cases in Japan. Genet Couns 18: 303-308, 2007.

和文

1. 小山さとみ, 小嶋恵美, 金澤早苗, 新田晃久, 栗林武男, 鈴村宏, 有阪治: 21-水酸化酵素欠損症の遺伝子型と病型の関係について 57例での検討. 栃木県医学会々誌 34: 34-36, 2004.
2. 有阪治, 志村直人, 新田晃久: 【そこが知りたい性の問題】環境ホルモンと胎児性発達の関連は? 小児内科 37: 1022-1025, 2005.
3. 有阪治, 山崎弦, 新田晃久: 【脳と性】性同一性障害の臨床 小児科における対応. HORMONE FRONTIER IN GYNECOLOGY 12: 262-268, 2005.
4. 新田晃久: 周産期の感染症 その診断と対応 トキソプラズマ. 栃木県産婦人科医報 32: 185-188, 2006.
5. 新田晃久, 渡部功之, 鈴村宏, 有阪治: 無呼吸回復刺激装置の試作および有用性の検討 手指を用いない回復刺激を目的として. 日本未熟児新生児学会雑誌 19: 105-108, 2007.
6. 鈴村宏, 渡部功之, 新田晃久, 有阪治: 日齢14未満における早産児のfree thyroxine (free T4), thyroid stimulating hormone (TSH) 値について. 日本周産期・新生児医学会雑 43: 100-105, 2007.
7. 鈴村宏, 新田晃久, 坪井弥生, 渡部功之, 渡辺博, 稲葉憲之, 有阪治: 早産児のRSウイルス感染予防のためのパリーブズマブ投与 その効果と副作用. 栃木県産婦人科医報 34: 4-7, 2007.

8. 福田啓伸, 鈴木宏, 宮本健志, 栗林良多, 山崎弦, 渡部功之, 新田晃久, 有阪治, 中村真美子, 深美悟, 渡辺博 : 新生児聴覚スクリーニングにおける要精査例に関する検討. Dokkyo Journal of Medical Sciences 35: 19-25, 2008.
9. 渡部功之, 山崎弦, 坪井弥生, 新田晃久, 鈴木宏, 有阪治 : 新生児に対する経鼻的持続陽圧呼吸法の効果と問題点. Dokkyo Journal of Medical Sciences 35: 169-173, 2008.

【症例報告】

1. Suzumura H, Nitta A, Ono M, Arisaka O: Neonatal intractable atrial flutter successfully treated with intravenous flecainide. Pediatr Cardiol 25: 154-156, 2004.
2. Nitta A, Suzumura H, Kano K, Arisaka O: Congenital left brachiocephalic vein and superior vena cava aneurysms in an infant. J Pediatr 147: 405, 2005.
3. Nitta A, Suzumura H, Arisaka O: Double-lumen peripherally inserted central catheter: a new useful device for neonates. Arch Dis Child Fetal Neonatal Ed <http://fn.bmjournals.com/cgi/eletters/89/6/F504#654>, 2005.
4. Yamanouchi H, Imataka G, Nakagawa E, Nitta A, Suzuki N, Hirao J, Suzumura H, Watanabe H, Arisaka O, Eguchi M: An analysis of epilepsy with chromosomal abnormalities. Brain Dev 27: 370-377, 2005.
5. Suzumura H, Nitta A, Arisaka O: Cerebro-oculo-facio-skeletal syndrome complicated by congenital ichthyosis. Clin Dysmorphol 15: 39-40, 2006.
6. Nitta A, Suzumura H, Kano K, Arisaka O: Congenital toxoplasmosis complicated with central diabetes insipidus in the first week of life. J Pediatr 148: 283, 2006.
7. Nitta A, Suzumura H, Tsuboi Y, Yoshihara S, Arisaka O: Cow's milk allergy with severe atopic dermatitis in a 605-g extremely low birth weight infant. J Pediatr 148: 282, 2006.
8. Nitta A, Nishikura K, Hirao J, Suzumura H, Yoshihara S, Arisaka O: Congenital left brachiocephalic vein and superior vena cava aneurysms in an infant: an update. J Pediatr 148: 708-709, 2006.
9. Nitta A, Suzumura H, Watabe Y, Okuya M, Nakajima D, Kurosawa H, Sugita K, Arisaka O: Fetal hemophagocytic lymphohistiocytosis in a premature infant. J Pediatr 151: 98, 2007.
10. Imataka G, Nitta A, Suzumura H, Watanabe H, Yamanouchi H, Arisaka O: Survival of trisomy 18 cases in Japan. Genet Couns 18: 303-308, 2007.
11. Nitta A, Nishikura K, Fukida H, Yoshihara S, Hirao J, Matsuda H, Arisaka O: Congenital left brachiocephalic vein and superior vena cava aneurysms in an infant: final update with an autopsy findings. J Pediatr 152: 445-446, 2008.
12. Nitta A, Suzumura H, Kano K, Arisaka O: Congenital cystic periventricular leukomalacia in a small-for-gestational age full-term infant. Pediatr Int 50: 696-697, 2008.

和文

1. 大和田葉子, 志村直人, 金澤早苗, 宮本健志, 有阪治, 新田晃久, 和気晃司, 崎尾秀彰 : カルバミルリン酸合成酵素1欠損症の高アンモニア血症の1例. 26: 71-74, 2006.
2. 新田晃久, 山崎弦, 渡部功之, 鈴木宏, 有阪治 : 修正42週および45週に肥厚性幽門狭窄症を発症した早産児二卵性双胎の双方発症例. 日本周産期・新生児医学会雑誌 44: 1233-1235, 2008.

【総 説】

【その他】